



# 平成28年度 筑前町 町政報告会

平成29年2月22日(水)  
コスモスプラザふれあいホール

皆様、こんばんは。本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、誠ありがとうございます。

ただ今から、平成28年度 筑前町 町政報告会を始めさせていただきます。

本日、司会を担当いたします、入庁4年目、税務課の森部と申します。

よろしくお願いいたします。

また、本日は筑前町手話の会の皆さまに、手話通訳をお願いしております。

手話の会の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、初めに、

町長の田頭きくみが、ごあいさつを申し上げます。

## 【町長あいさつ】

続きまして、発表担当者による、町政報告を行います。

今回は4つの観点から報告をいたします。

はじめに、ハード面におけるまちづくりについて、ご報告いたします。

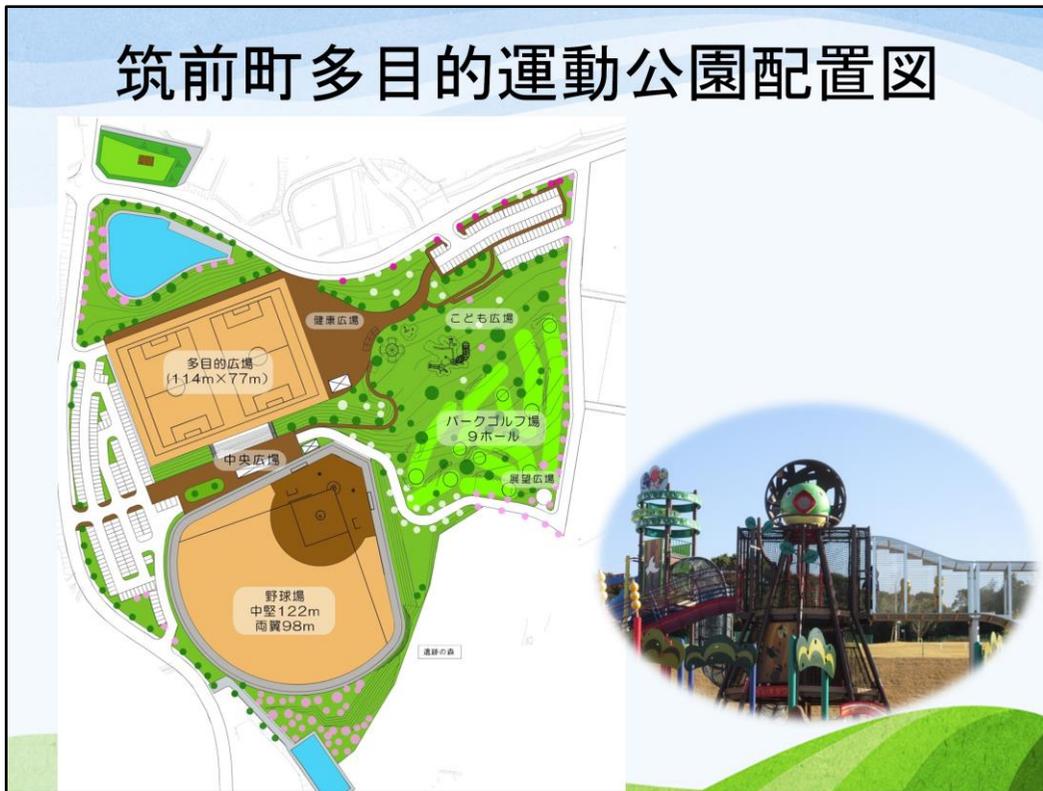
# ハード面におけるまちづくり



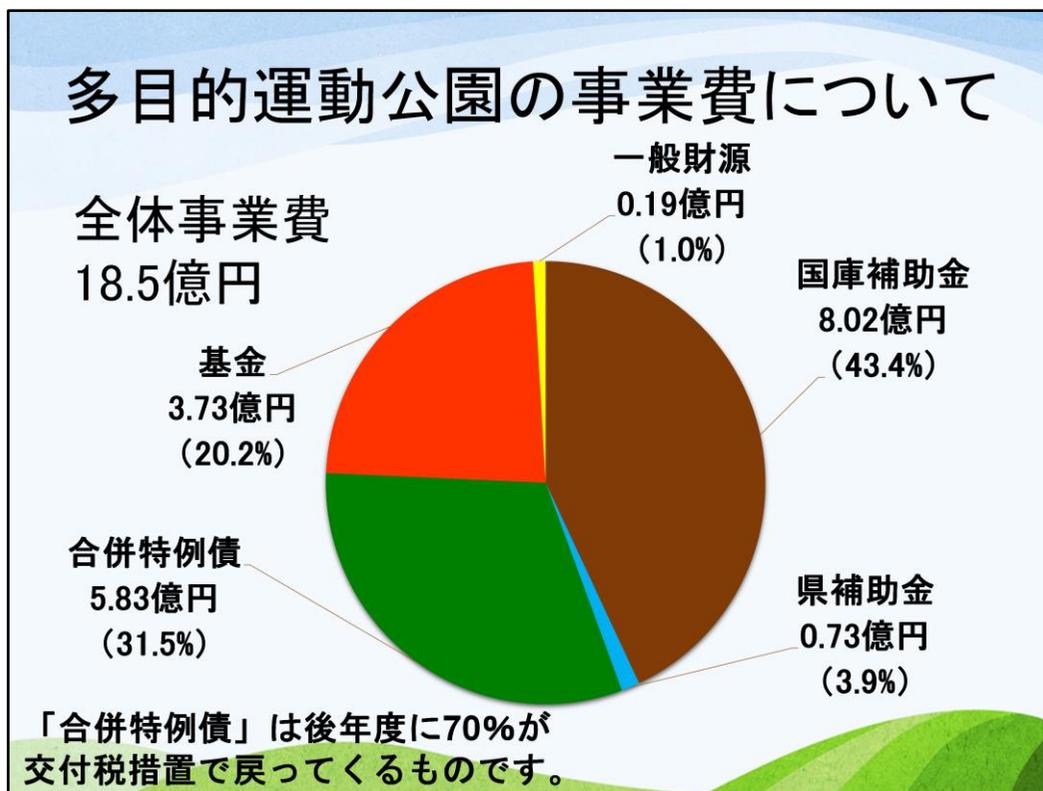
入庁2年目、上下水道課の光安と申します。よろしくお願ひします。  
私からは、2つのまちづくり事例について報告します。



ひとつめは、筑前町多目的運動公園事業についてです。  
多目的運動公園は、旧三輪町と旧夜須町の  
合併新町建設計画で整備することとなった公園です。  
平成17年度に基本構想、  
平成19年度に基本計画・基本設計を行い、  
その後変更設計を経て、  
公園事業の都市計画決定、  
事業認可を取得しました。  
平成23年度から国の補助事業を活用し、  
多くの関係者の方に協力をいただきました。



平成27年9月には大型遊具を中心としたこども広場、健康遊具のある健康広場、多目的広場をオープン、昨年4月には、パークゴルフ場とメイン駐車場をオープンしました。今年度は、野球場の本体工事に加えて、ナイター設備の工事を行っており、3月27日に開園式を行う予定となっています。野球場は、中堅122m・両翼98mの硬式野球規格となっており、120人分の観覧スタンドも整備しています。また、LEDの夜間照明を野球場に6基、多目的広場に4基設置しており、整備後は22時までの利用が可能となります。駐車場は野球場側のメイン駐車場と子ども広場側のサブ駐車場合わせて、280台分となります。



次に多目的運動公園の事業費についてです。

全体事業費は18億5,000万円。

「防災・安全社会資本整備総合交付金」という国の補助事業であり、

用地補償費は3分の1、

工事費は2分の1の補助で、

8億200万円が国庫補助金となっています。

県の補助金は7,300万円、

合併特例債は5億8,300万円の借入金ですが、

このうち70%が交付税措置で戻ってくることになります。

基金の3億7,300万円は、

下高場にあったグラウンドを

自衛隊に売却した費用を主に充てています。

町の捻出費用は

合併特例債の交付税措置以外の部分約1億7,500万円と

一般財源1,900万円の

合わせて1億9,400万円となります。



休日ともなると、たくさんの家族連れでにぎわっており、  
近隣の市町村から訪れる方も少なくありません。  
パークゴルフ場では、子どもからお年寄りまで  
一緒になってプレーする姿も見受けられます。  
3月末には硬式規格の野球場もオープンし、  
一層にぎわうこととなるでしょう。  
公園の魅力を通して、筑前町を知り、  
「いいところだな・住みたいな」となれば  
より町も活性化することだと思います。  
みなさまにもご利用いただき、  
また町内外のお知り合いにPRをしていただきたいと思います。  
以上で多目的運動公園事業の報告を終わります。

# 筑前町立大刀洗平和記念館 増築事業

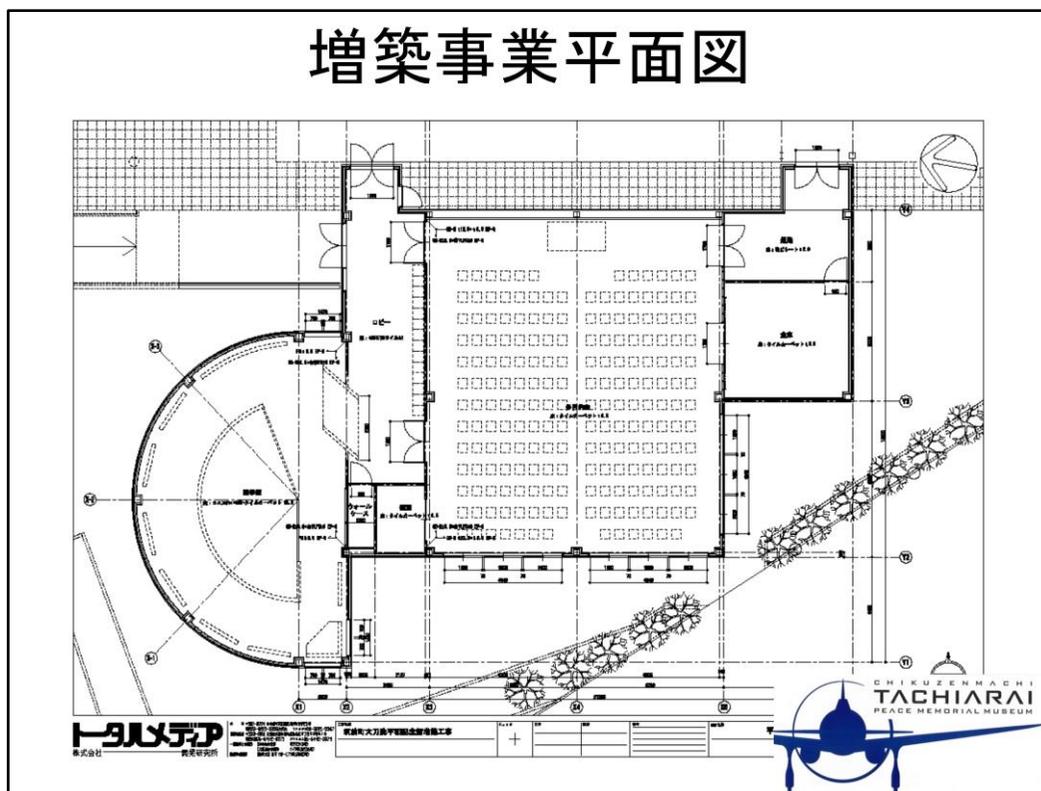


次に、筑前町立大刀洗平和記念館増築事業について報告します。

## 増築事業イメージ図



平成21年10月に開館した「筑前町立大刀洗平和記念館」は、かつて東洋一と謳われ、筑前町、朝倉市、大刀洗町と広範囲に存在した旧陸軍大刀洗飛行場を核として、風化しつつある戦争の悲惨さと平和の大切さを語り継ぐ平和学習施設として運営を行ってきました。来館者は、昨年4月には90万人を超え、増加する団体来館者の対応や新たなテーマづくりについて課題が発生しています。それらの課題解消を目的として、現在、本館西側のスペースに新館を建設し、今年4月にオープンします。新館は、鉄骨造り、平屋建て、床面積約390㎡の建物となっています。



次に、平面図で、主な用途を説明します。

はじめに、中央の多目的ホールです。

現在本館で行っている映画上映及び平和の朗読は、  
1回あたり100人が限界です。

修学旅行などの大規模団体、複数の団体の来館者に、  
十分な対応ができていなかったことを解決する目的で、  
200人程度が収容できるホールとなります。

講演会やイベントの会場、臨時展示企画の利用も考えています。

次に、左下にある半円状の新展示室の設置です。

「特別攻撃隊」を展示のメインテーマとします。

いわゆる「特攻」については開館以来、

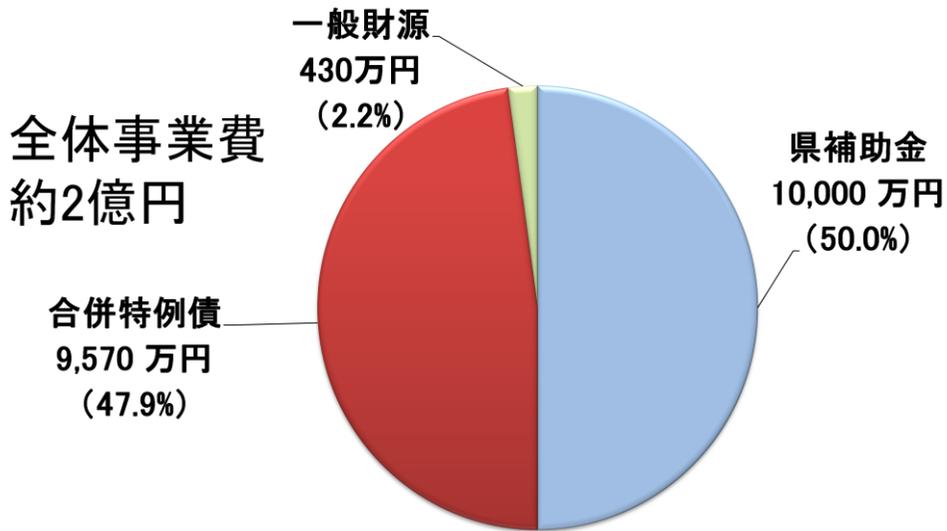
来館者の方々の関心が高いテーマであり、

「特別攻撃隊」が大刀洗から出撃した史実も残っており、

戦争の悲惨さや当時の人々の思いを学習する

展示室になる予定です。

## 大刀洗平和記念館増築の事業費



「合併特例債」は後年度に70%が  
交付税措置で戻ってくるものです。



次に事業費ですが、約2億円となっています。  
 県の「広域元気づくり事業交付金」という補助事業を活用し、  
 補助率は2分の1で、  
 1億円が県の補助金となっています。  
 合併特例債は9,570万円、  
 このうち70%は、交付税措置で戻ってくることとなります。  
 町の捻出費用は合併特例債の交付税措置以外の部分  
 約2,870万円と一般財源430万円の  
 合わせて3,300万円となります。



大刀洗平和記念館は、これからも  
旧大刀洗飛行場の歴史や風化しつつある戦争の悲惨さとともに、  
平和の大切さを後世に語り継ぐ平和学習施設として  
運営を充実、発展させていきます。  
以上で大刀洗平和記念館増築事業の報告を終わります。  
(発表者交替)

## 西部地区保育所整備推進

入庁2年目、生涯学習課の橋本と申します。よろしく申し上げます。  
私からも2つのまちづくり事例を報告します。  
ひとつめは、西部地区の保育所整備推進についてです。

## 西部地区の保育所整備推進

### 筑前町保育所入所状況

	定員 A	H28.4.1 入所者数 B	H28.10.1 入所者数 C	超過人数 (AとC比較)
美和みどり保育所(依井)	150人	121人	140人	△10人
白梅保育園(原地蔵)	100人	114人	127人	27人
篠隈保育所(篠隈)	130人	146人	163人	33人
なずな保育園(東小田)	120人	141人	155人	35人
合計	500人	522人	585人	85人

全国的に深刻化している「待機児童」問題。  
筑前町も例外ではありません。  
本町では、夜須地区を中心に  
定員超過が慢性化している現状があり、  
特に0歳～2歳の低年齢児の保育希望が増加傾向にあります。  
また、平成28年10月1日時点の入所者数は、  
合計で585人であり、  
定員を85人超えている状況です。  
何とか保育基準を満たした対応を行っていますが、  
すでに手いっぱいの状況であり、  
希望の保育所に入所できないことや、  
入所日を調整していただくことがある状況です。

## 西部地区の保育所整備推進

・入所定員の拡大



・需要と供給のバランスを適正化



・子育て環境づくり・少子化対策

・地域雇用促進・子育て世代の転入促進

このような状況から、定員超過が慢性化している夜須地区において、中でも、福岡都市圏に近い中牟田小学校区に保育所の新設を行うこととしました。

入所定員を拡大することで、保護者が安心して働きやすい環境づくりができ、出生率向上のほか、地域雇用の促進や子育て世代の転入促進などの効果も期待できます。

## 西部地区の保育所整備推進

### ■事業概要

予 定 地 朝日

入所定員 90人

事業実施主体 筑前町

施設設置主体 社会福祉法人すぎのこ会

施設運営主体 社会福祉法人すぎのこ会

総事業費 約2億4,000万円(見込)

補助金額 約1億3,000万円(見込)

(負担内訳 国:約1億1,500万円、町:約1,500万円)

事業概要については、現時点ではご覧のとおりです。

朝日地区に定員90人規模の保育所が民営により建設されます。

施設の設置・運営は、現在、なすな保育園を運営している

「社会福祉法人すぎのこ会」により行われます。

総事業費は、約2億4千万円。補助対象経費における補助金の負担割合は、  
国3分の2、法人4分の1、町12分の1、となります。

このことで、施設整備に係る町の負担は、  
約1,500万円となる見込みです。

## あさひ保育園



平成29年4月開園予定

住所 筑前町朝日1078番地1

新設保育所は、「あさひ保育園」と名付けられ、平成29年4月から開設できるよう、現在、建設が進められています。ご覧のとおり、2階建ての施設となっており、場所は、朝日地区のコンビニ「ファミリーマート」のところから南側に入っていったところになります。あさひ保育園の整備により、町内の保育所定員は合計で、590人になります。子育て世代が育児と仕事を両立でき、出産や子育てに希望を持てる地域となれるよう、今後も取り組んでいきたいと考えています。以上で、西部地区の保育所整備推進についての報告を終わります。

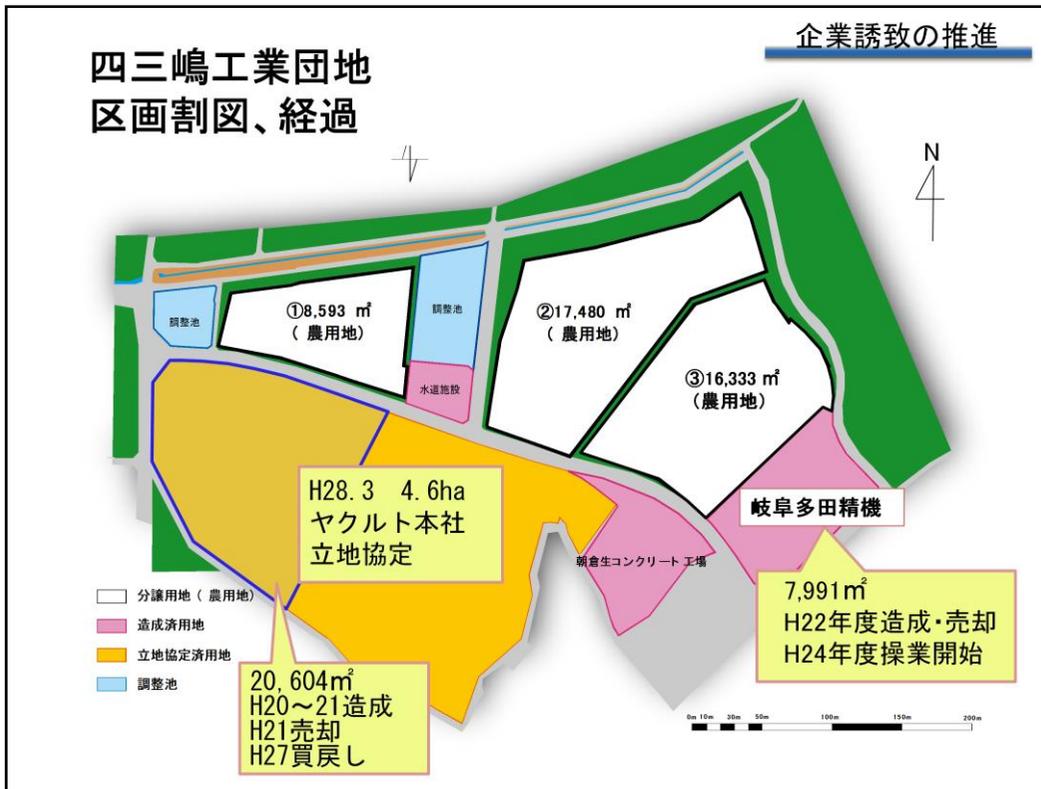


2つめは企業誘致についてです。

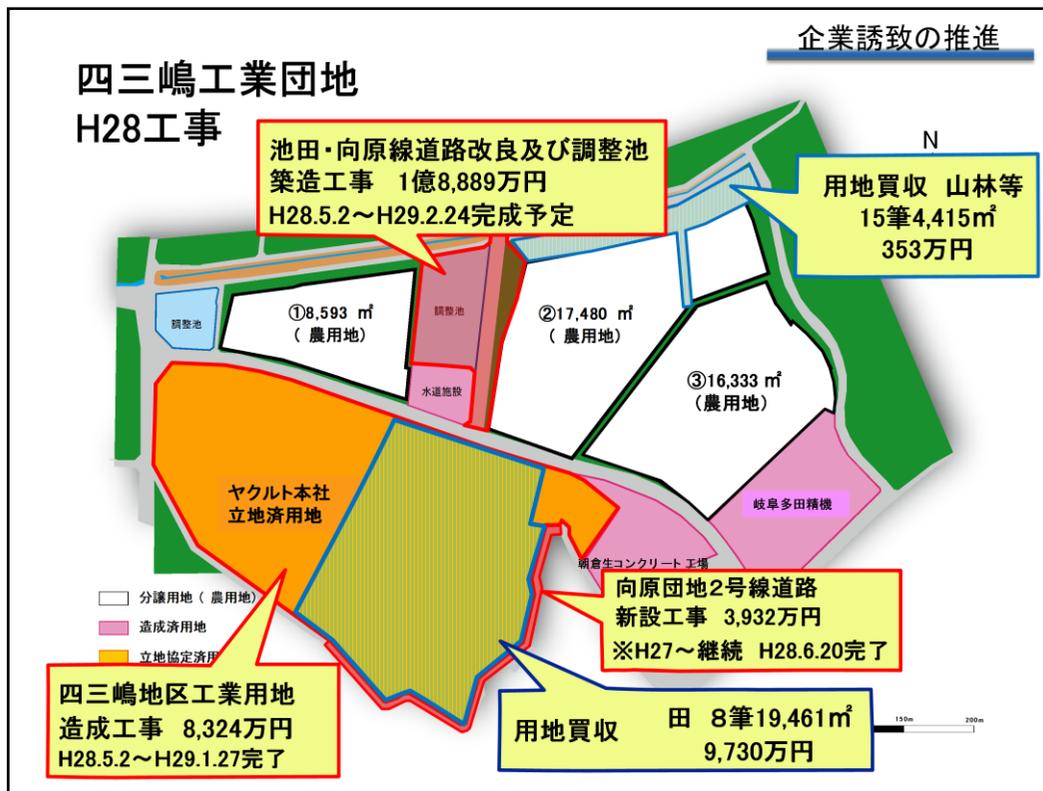
筑前町では、産業の振興と雇用拡大による町の活性化のため、最重要施策として企業誘致の推進を行っています。

総合計画や都市計画マスタープランにおいて、県道久留米筑紫野線沿線の四三嶋地区を企業誘致ゾーンとして定めており、約11ヘクタールの四三嶋工業団地への誘致を推進しているところです。

筑前町南部に位置する四三嶋工業団地は、小郡インターチェンジまで車で5分、福岡都市圏や久留米都市圏にも近く交通利便性に優れ、また、上下水道等のインフラも整った企業誘致に非常に適した立地条件となっています。



これまで四三嶋工業団地に進出されたのは、平成24年に操業開始されました岐阜多田精機の1社となっています。平成21年にマルヤス工業に売渡していた青い線で囲んでいる2ヘクタールについては、工場建設を断念されたため、平成27年8月に買戻しを行いました。その2ヘクタールを含む黄色の部分、約4.6ヘクタールについて、昨年3月28日に株式会社ヤクルト本社と立地協定、土地の売買契約を行いました。



今年度は、ヤクルト用地内の民有地の用地買収や造成工事、周辺道路の整備工事及び調整池の築造工事を行っています。造成工事及び道路新設工事は完了し、道路改良工事及び調整池築造工事は2月末完成予定となっています。

企業誘致の推進

四三嶋工業団地  
工事状況

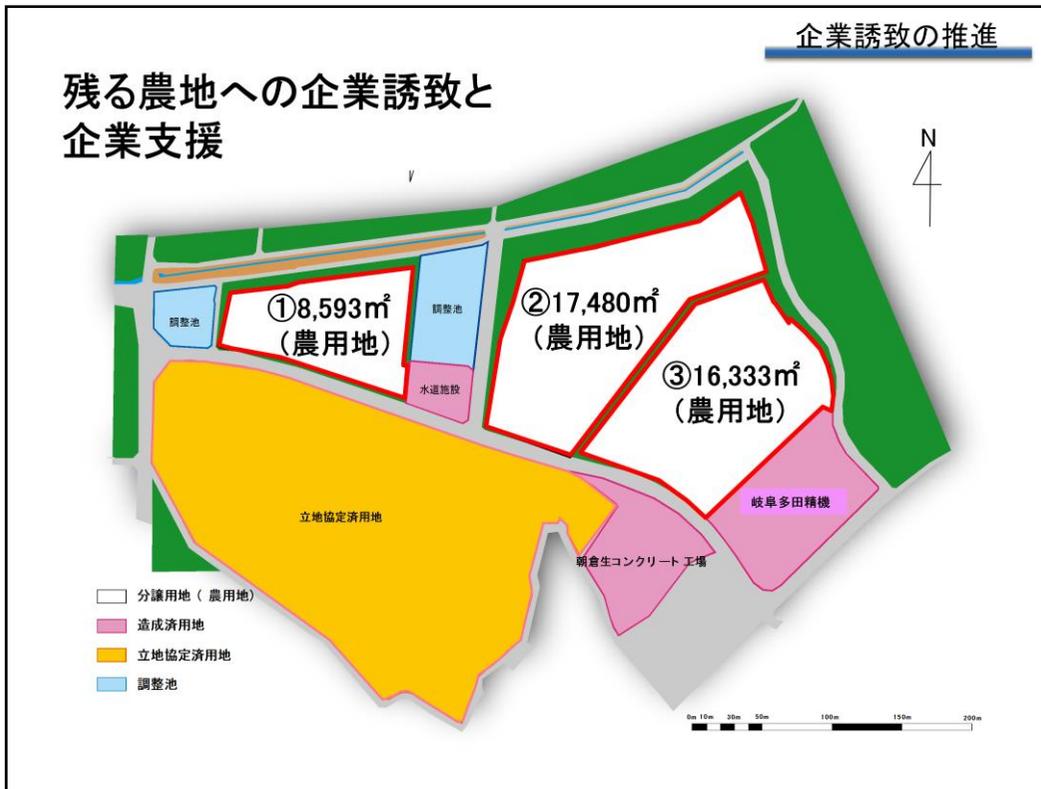
(H29.1.18現在)



▲ヤクルト用地  
造成工事状況

◀池田・向原線道路  
改良、調整池築造  
工事

現在の状況はご覧のとおりです。  
右上の写真が、ヤクルト用地の造成工事の状況です。  
3月にヤクルト本社へ土地の引き渡しを行います。  
いち早い操業開始が待たれます。  
左下は道路改良、調整池築造工事の状況です。



四三嶋工業団地は

これまで、農業振興地域内の農用地であるため、  
企業誘致が困難な状況にありました。

今回の企業誘致の取組により、

時間はかかるけれども、企業誘致が可能となりました。

現在、県内外の企業から多くのお問合せを受けているところです。

残る農用地4.2ヘクタールも、

食の都づくりというコンセプトをもとに

優良企業の誘致をすすめることで、

雇用の促進並びに活性化が期待できます。

さらに誘致した企業の支援や連携に努めていきます。

以上でハード面におけるまちづくりの報告を終わります。

(発表者交替)

# ソフト面におけるまちづくり



続きましてソフト面におけるまちづくりについて、  
ご報告いたします。

## 健康づくり

入庁2年目、健康課の三原と申します。よろしくお願ひします。  
私からは健康づくりについて報告します。

**政策目標**

**健やかで  
ぬくもりのある“ちくぜん”**

— 生涯健康づくりの推進 —



**母子保健活動**

**老成人保健活動**

健康課では、一生涯を通じた健康づくりの推進を目標に、それぞれのライフステージに応じた保健活動を行っています。

## 1 母子保健活動

子どもを持つすべての家庭への保健活動



		
妊娠	出産	育児
◆ 母子健康手帳	◆ 乳幼児健診	◆ のびのび発達相談
◆ パパママ教室	◆ すこやか相談	◆ 離乳食教室
◆ 妊婦健診	◆ 家庭訪問事業	◆ 定期予防接種

子どもを持つすべての家庭を対象にした保健活動を紹介します。  
 現在、核家族化などの社会環境の中、  
 育児への負担や不満を感じる人が増えています。  
 安心して妊娠・出産・育児ができることを目指して、  
 健診や教室、家庭訪問や相談事業等の  
 子どもとその家族の方への保健活動を行っています。



続いて、老成人保健活動を紹介します。

自分らしい生活を続け、

健康寿命を延ばすことができるように、

若い世代から生活習慣の改善を支援したり、

健康情報の提供などの食事、運動、

心の健康づくりに関する保健活動を行ったりしています。

## ② 老成人保健活動 (1)

からだの異常を早期発見し、早期改善・早期治療への取り組み

### 筑前町住民健診

6月～11月に実施

国保  
特定健診

対象者：40～74歳の筑前町国民健康保険加入者  
健診費用：500円 ※個別健診は無料



がん検診

検診項目：肺がん・大腸がん・胃がん  
・前立腺がん・肝炎ウイルス検査  
無料クーポン券：肝炎ウイルス検査（対象年齢の方）

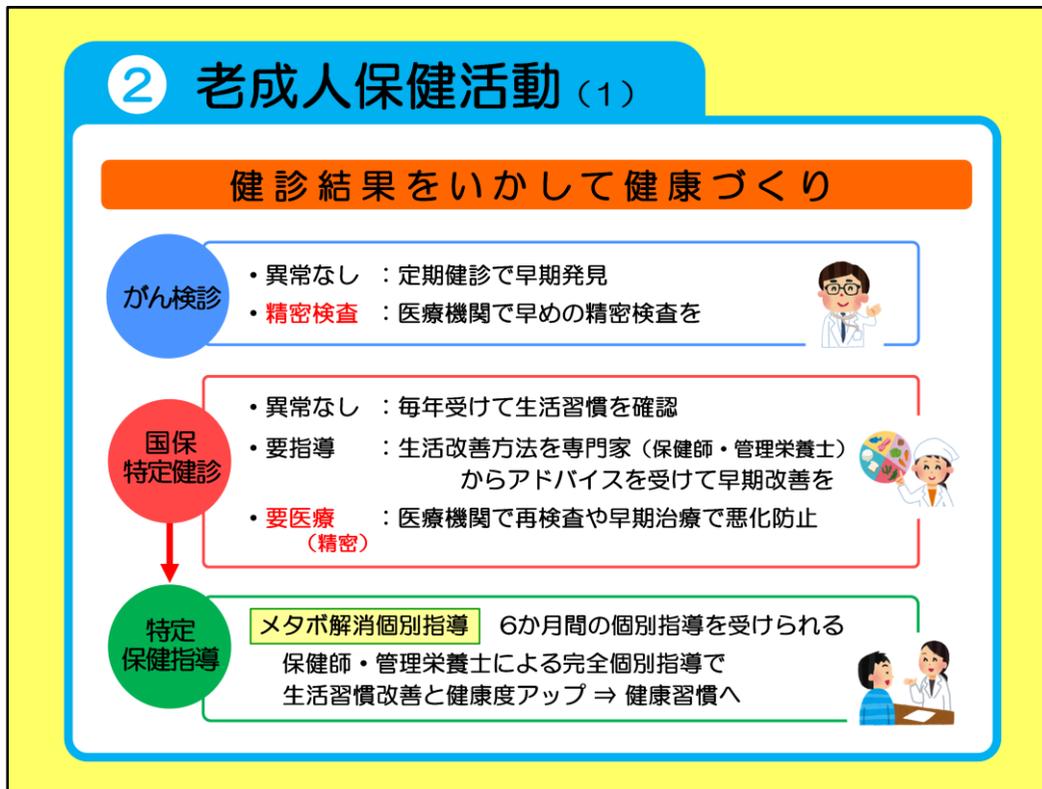


女性がん  
検診

検診項目：子宮頸がん・乳がん・骨粗鬆症  
無料クーポン券：子宮頸がん（21歳）、乳がん（41歳）



壮年期はがんや生活習慣病が気づかぬうちに進行し、  
介護が必要な状態につながる可能性があります。  
医療費にも大きな影響があるほかに、  
以前のように仕事ができなくなるなど、  
自分や、周りの人のライフスタイルを大きく変える要因になります。  
特定健診は約8,000円かかる健診を500円で受けることができます。  
年1回は受けるようにしましょう。



健診結果は、健康的な生活習慣へ改善するための参考にしてください。  
生活習慣改善のための方法を  
健康課の保健師や管理栄養士が個別に対応します。  
がん検診では、毎年早期がんが発見されています。  
精密検査が必要な場合は必ず病院に行ってください。  
検診の結果は、100%ではありません。  
異常を感じたら、早めに病院で受診するようにしましょう。

## ② 老成人保健活動 (2)

生活習慣改善への取り組み

### 運動教室

メタボ予防 ・解消教室	血糖値 改善教室	脂質改善のための 運動教室
<p style="text-align: center;">対象：体重（BMI）、 腹囲が気になる人</p> <p>[ 前期 ] 平成28年5月26日 ～9月1日</p> <p>[ 後期 ] 平成28年11月17日 ～平成29年2月23日</p> <p>* 前・後期とも 14回ずつ実施</p> 	<p style="text-align: center;">対象：血糖値、 HbA1cが 基準値以上の人</p> <p>[ 前期 ] 平成28年5月26日 ～9月1日</p> <p>[ 後期 ] 平成28年11月17日 ～平成29年2月23日</p> <p>* 前・後期とも 14回ずつ実施</p> 	<p style="text-align: center;">対象：中性脂肪 ・コレステロール値 が基準値以上の人</p> <p>[ 前期 ] 平成28年9月1日 ～9月15日</p> <p>[ 後期 ] 平成28年11月24日 ～12月8日</p> <p>* 前・後期とも 3回ずつ実施</p> 

特定健診の結果から、筑前町は運動習慣がない人の割合が、全国平均よりも高いことがわかりました。運動を日常的に行っていただくため、27年度から運動教室を始めています。今年度はメタボ・血糖値・脂質異常症の方を対象にした3つの教室を行いました。教室参加者の9割に改善がみられました。

## ② 老成人保健活動 (2)

20歳からの運動習慣づくり

運動教室

④エクササイズ  
スペース

木曜日の夜 は

コスモスプラザ多目的ホールが

エクササイズ  
スペース

になります!!

対象：筑前町在住の  
20歳以上の人

自由に  
運動できる  
空間

血圧・ 体重測定	ストレッチ体操・ 筋力トレーニング など	有酸素性 運動
ミニレッスン		

[ 実施時間 ] 毎週木曜  
18:00～21:00

\* 28年度実施回数：39回

[ 参加料金 ] 無料

会場内イメージ

もう一つの運動教室は、毎週木曜日の夜、コスモスプラザ多目的ホールで、自由に運動できるエクササイズスペースという運動教室を行っています。この教室では、ご自分の目的と時間に合わせて自由に運動を行うことができます。20歳以上の住民の方は無料で利用できますので、お気軽にお越しください。

## ② 老成人保健活動 (3)

みんなで楽しく取り組む健康づくり

### ウォーキング・ラジオ体操 普及推進事業

- ◆ **ウォーキング**  
登録参加者に「歩数記録ノート」と「歩数計」を提供
- ◆ **ラジオ体操**  
登録参加グループに「ちくちゃんスタンプ」、  
「スタンプカード」、「スタートセット」を提供

★ 到達回数に達した場合は記念品をプレゼント

ウォーキング 登録者数	1,618人
ラジオ体操 登録団体数	86グループ

(平成27年4月～平成28年12月)

### しあわせのチェーンウォーキング



<チェーンウォーキング イメージ>

- ◆ ウォーキングの良さをより多くの人に
- ◆ 1台の歩数計を、次の人へタスキのようにつなぎ、健康の輪を広げていく
- ◆ 町全体での地域交流や健康意識の向上

平成28年6月から200個の歩数計が町内を回っています

その他に、運動に取り組むきっかけにさせていただくため、  
27年度からウォーキング・ラジオ体操普及推進事業、  
今年度からは人から人へつないでいく

「しあわせのチェーンウォーキング」を実施しています。

6月末まで実施していますので、

お手元に、赤いバックが届きましたら、

ぜひやってみてください。

次の人へつないで、健康づくりの輪を広げていきましょう。

## ② 老成人保健活動（4）

各区での 地域ぐるみの健康づくり活動を支援

### 健康づくり推進地区事業

目的

1 食と運動と健康をテーマに、地域の自由な発想による自主的・自発的な取り組みを進める

2 町民の健康意識の向上、健康の維持・増進を図る

3 地域コミュニティの育成に資する



助成について

◆ 助成額  
10万円～最高30万円  
+ 備品代10万円

◆ 助成期間 3年間



《参考》27年度 交付確定額

依井区	182,936 円	中牟田町区	90,889 円
久光区	200,000 円	朝日西区	156,800 円
南部コミュニティ 運営協議会	300,000 円	四三嶋区	150,000 円
下曽根田区	200,000 円	安野区	100,000 円

最後に、健康づくり推進地区事業を紹介します。

これは、地域の自発的な健康づくりにかかる費用を、町が助成するというものです。

27年度は8地区に助成を行いました。助成額は最高30万円です。

助成期間は3年間ですが、

事業が終わってからも地域での健康づくりを続けていただけるよう、備品代を別に10万円助成します。

## ② 老成人保健活動（4）

区民と区長との 参加・協力による様々な活動

### 健康づくり推進地区事業

#### 栄養講座

- ◆ メタボ予防
- ◆ 動脈硬化予防
- ◆ 高血圧予防



#### 運動講座

- ◆ ウォーキング講座
- ◆ 笑いヨガ ◆ 脳トレ体操
- ◆ 腰、ひざ、 肩こり予防
- ◆ 筋力の維持



#### 健診受診率向上対策

- ◆ 住民健診を受けよう
- ◆ 疾病の早期発見・早期治療
- ◆ 糖尿病・高血圧  
・CKD予防健康講座
- ◆ 健康寿命の延伸

#### 農地を利用した健康づくり

- ◆ 他年齢との交流
- ◆ 農作業を通して  
つくる喜び
- ◆ 体を動かす楽しさ



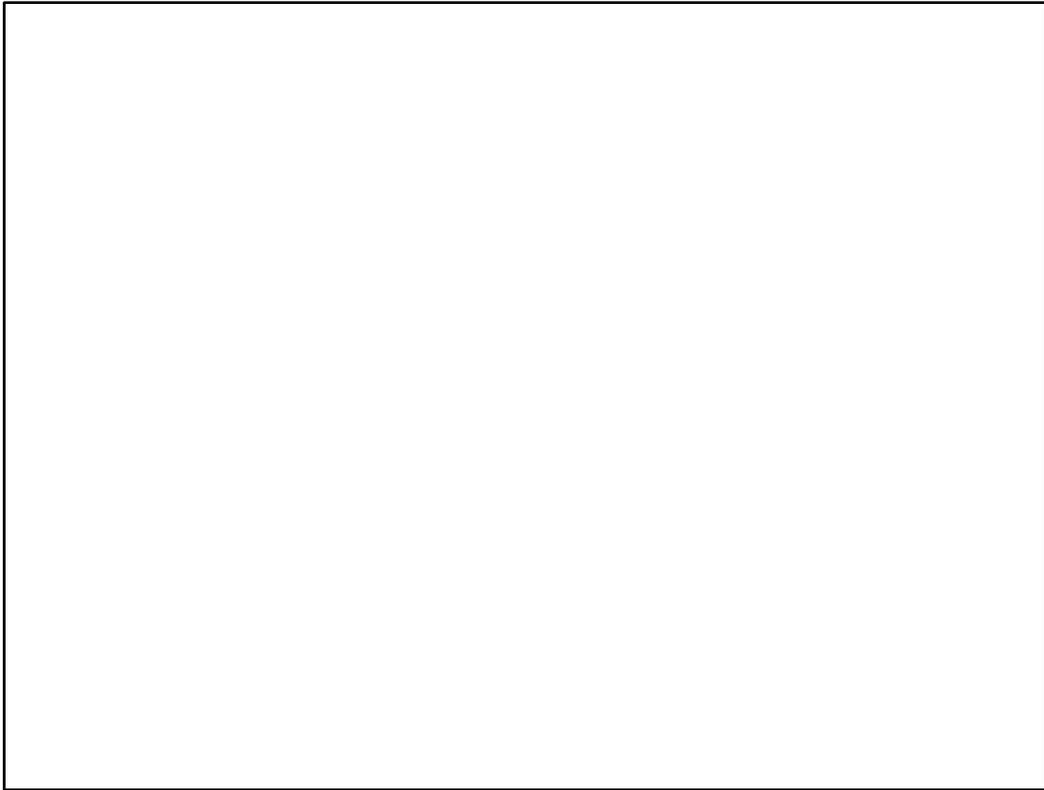
各区で、区長さんを中心に栄養講座や運動講座、健診受診率向上対策などに取り組んでいただいています。自分の健康のため、大切な人の健康のためにも各区で人と人とのつながりを大切にしたい世代を超えた健康づくりを支援します。



町の人が元気だから、町全体も元気。  
活気あふれる筑前町を目指します。  
以上で健康づくりに関する報告を終わります。

## 教育施策

入庁2年目、教育課の松本と申します。よろしくお願ひします。  
私からは、教育施策についてご報告します。  
まずはこちらをご覧ください。

**【動画自動再生:約1分】**

これは、昨年11月に、三輪小学校で開催された学習発表会の様子です。  
英語クラブの子どもたちが、自分の夢を流暢な英語でスピーチしています。  
多くの参観者の前で堂々とスピーチする子どもの姿は、  
町が目指す国際的な視野を持つ  
「グローバル人材」の育成と重なるもので、  
町の教育施策を象徴するものです。

## 教育支援大綱・総合戦略に基づいた教育施策の推進

### 筑前町教育支援大綱

【基本理念】 未来を担う子どもが主人公

ちくぜんっ子は  
地域で活躍するもよし、  
世界に羽ばたくもよし。

そして教育は未来への架け橋である。



#### 文武不岐（学力・体力プラスオンリーワン）

「豊かな学力、豊かな心、豊かな体」とともに、個性を光らせ、社会を生き抜く力を身につけ、また学校・家庭・地域が協働し、夢や志を持った子どもを育てます。

#### フィールドに学ぶ

筑前町には恵まれた風土とFOOD（食）があります。緑豊かな自然環境の中で育まれた食や文化を学び、町の基幹産業である農業を学び、先人たちが築き上げてきた歴史を学べる環境を整備します。

#### グローバルな人材育成

東京オリンピック・パラリンピックの開催等によるグローバル化にむけて、国立筑前高等学校少年自然の家などを活用した地域間交流や国際交流の充実を図りつつ、国際理解教育を積極的に推進し、国際的視野を持つ人材を育成します。

#### 平和を学ぶ

平和環境の発信基地である筑前町立大刀洗平和記念館を活用した平和学習を充実させます。忘れてはならない戦争の悲劇を通して平和の願いを後世に伝えるため、平和の大切さを育む取り組みを進めます。

#### 「おかげさま」で育む郷土愛

筑前に伝えている「おかげさま」の精神を受け継いだ、郷土を愛する子どもたちを育てます。また、昔ながらの近隣の人間関係を大切に「おかげさま」の精神で支え合い助け合う地域ボランティアやコミュニティスクールを推進します。

平成27年12月17日 筑前町長 田頭喜久巳

### 【基本理念】

未来を担う子どもが主人公

ちくぜんっ子は

地域で活躍するもよし

世界に羽ばたくもよし

そして教育は未来への架け橋である

● 知・徳・体のバランスの育成

● おかげさまの文化に根付く  
筑前町を愛する **郷土愛**

● 国際的な広い視野を持った  
**グローバルな人材の育成**

ちくぜんっ子は、地域で活躍するもよし」  
「世界に羽ばたくもよし」  
「教育は未来への架け橋である。  
「筑前町教育支援大綱」が策定されました。

「知・徳・体のバランスのとれた力」を身につけ、  
おかげさまの文化が根付く筑前町を愛し、  
国際的な広い視野を持ち、  
あらゆる場で活躍できる姿を目指しています。

教育支援大綱・総合戦略に基づいた教育施策の推進

**筑前町総合戦略(8Pプラン)**

05「教育環境の整備・推進」

**②英語教育の充実**

● 中学校卒業までに英検3級 取得 5割 以上

POLICY

05

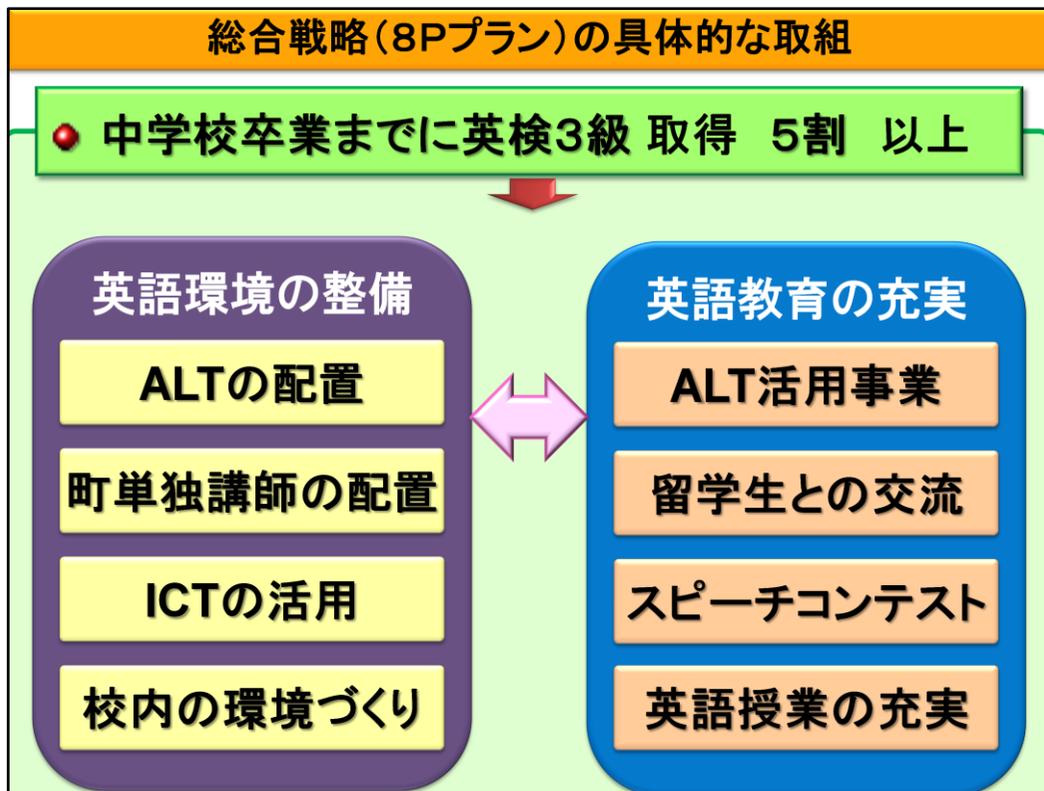
変化の激しい社会を生き抜く力

イラストはイメージです

● 確かな英語力の習得

● グローバル社会に対応できる能力の育成

総合戦略、いわゆる「ハッピープラン」でも、英語教育の充実を掲げています。子どもが、変化の激しい社会を生き抜いていくために、グローバル社会に対応できる力を身につけることは、必要な資質や能力であると考えています。ハッピープランでは、「中学校卒業時までに、5割以上の子どもが、英検3級取得の英語力を身に付ける」ことを具体的な目標に掲げています。



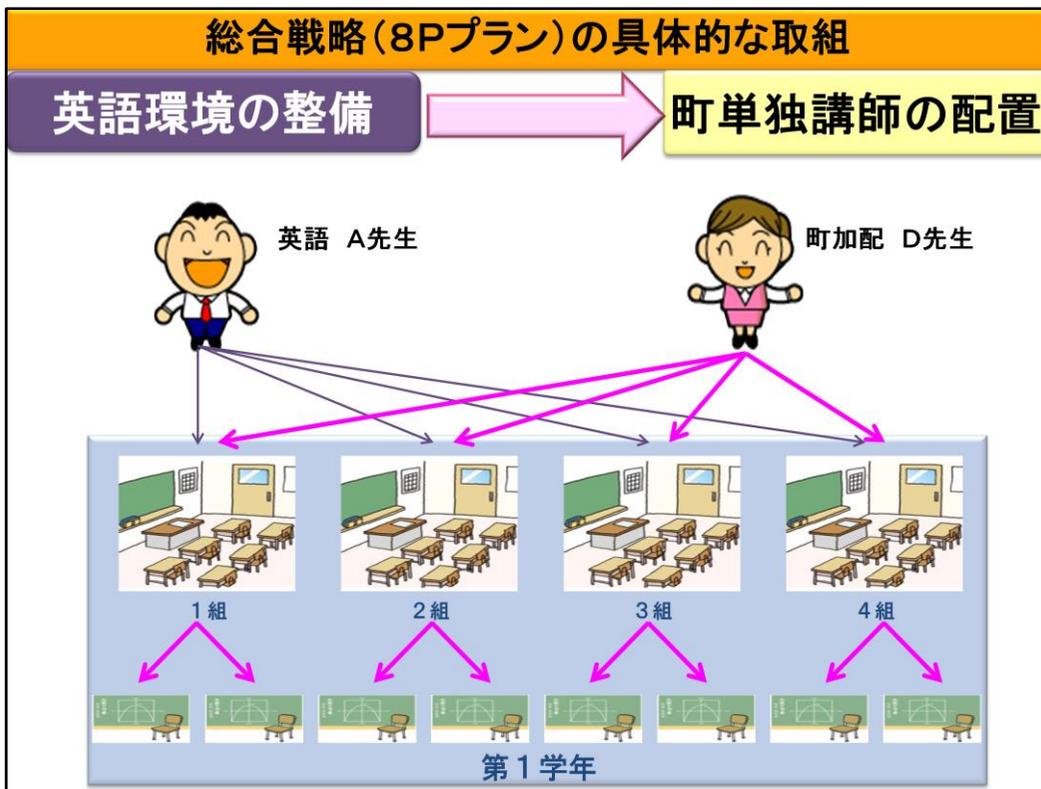
教育委員会は、  
英検3級取得のための環境整備を本年度の重点施策と設定し、  
「英語環境の整備」と「英語教育の充実」の  
2つを柱とした取組を実施しました。  
はじめに、  
英語環境の整備の柱から、  
ALTの配置について説明します。



本町では、2名のALTがいます。  
2名体制をとることで、  
すべての子どもたちが、  
毎週1時間は、  
ALTと一緒に学習することができるようになります。



また、ALTが決められた曜日に、学校に行くことで、担任とALTが連携した計画的な英語の授業づくりが可能となり、コミュニケーション能力の向上に努めています。



次に、町単独常勤講師の配置です。

本町では、中学校に、町単独で2名の常勤講師を雇用しています。

現在は、英語科と数学科の2名ですが、

来年度は、2名とも英語科の常勤講師を配置する計画です。

中学校入学後から、英語科の授業を少人数に分割し、

すべての子どもに「英語が楽しい」と実感させるようにします。



次にICTの活用です。

ICTは、子どもの学習意欲を引き出すとともに、主体的な学習をサポートできる有効な道具の一つです。



すべての小中学校に、電子黒板を設置しています。  
電子黒板は、パソコンのような使い方ができます。  
視覚に訴えることができ、  
画面を拡大したり、  
映像を何度も繰り返したりすることができます。  
特に、小学校で活用しています。  
子どもは、英語の音声と映像とが一致し、  
自然と英語のフレーズが身についていきます。



このような、電子黒板の有効性を認識し、  
27年度に電子黒板を小学校の普通教室に設置しました。  
今年度末までに、すべての中学校にも設置する計画です。

**総合戦略(8Pプラン)の具体的な取組**

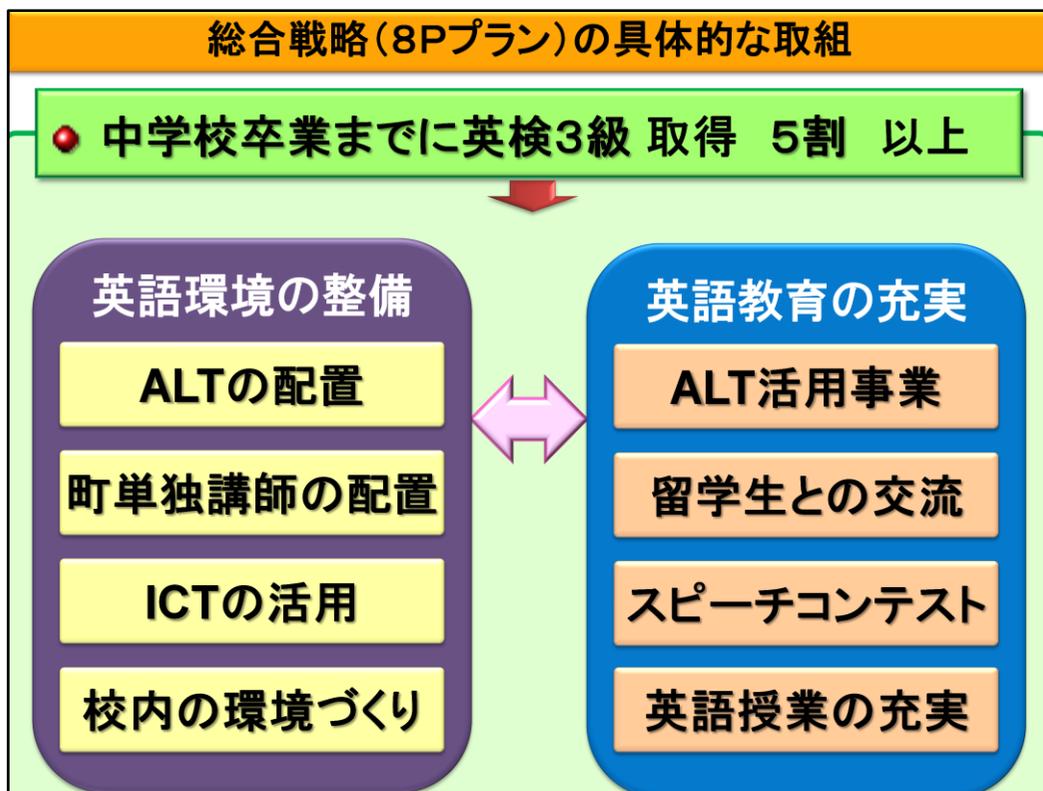
**英語環境の整備** → **校内の環境づくり**

Good Morning,  
Nakamuta Elementary  
School students!  
Today is Monday.  
The weather is Sunny.  
Have a nice day!

教育委員会では、「英検3級取得」に向け、今年度は、英語への興味・関心を高める校内の環境づくりに力を入れてきました。はじめに、「英語を使った校内放送」です。ALTに協力してもらい、子どもが英語で放送します。毎日数回、スピーカーから英語が流れてくることで、自然と英語への関心が高まってきます。



給食の時間に、ランチルームで、ALTによるワンポイント英会話を取り入れている学校もあります。身近な食べ物などを英語で表現するにはどう言えばよいのか、子どもたちは自然と英語のフレーズを身につけていきます。



次に、英語教育の充実の柱について説明します。



ALTを活用した英語教育推進事業についてです。

2人のALTを活用した

小学校3・4年生対象の「ALTとあそぼ!!」を実施しています。

夏休みを利用し、各学校を会場に実施しています。



英語を使った、ゲームや歌、ダンスなどの体験活動を通して、外国の言語や文化への興味、親しみを持つことができることをねらいとしています。今年度は、129人が参加しました。



次に、小・中学生が対象の、  
立命館アジア太平洋大学留学生との交流です。  
日頃、学校で学んだ  
英語でのコミュニケーション能力を高めることをねらいとしています。  
留学生の国の食べ物や文化、民俗などについて、  
英語でのプレゼンテーションを受けています。



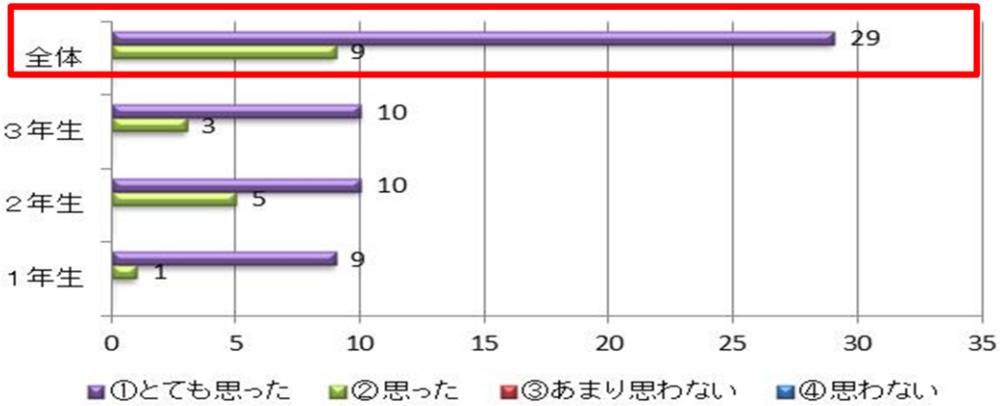
授業で習得した英会話のフレーズや知っている英単語はもちろんのこと、時には、ボディーランゲージを駆使しながら、真剣に、楽しく留学生との交流を楽しみました。

## 総合戦略(8Pプラン)の具体的な取組

## 平成28年度 成果と課題

「英語でコミュニケーションがとれるようになるために、もっと英語を勉強してみたい」と思いましたか。

英語を使ったコミュニケーションの意欲



交流後のアンケート結果で

「英語でコミュニケーションがとれるようになるために、もっと英語を勉強したい」とすべての生徒が回答しています。

## 総合戦略(8Pプラン)の具体的な取組

### 平成28年度 成果と課題

#### 活動後の感想

◇ 最後に、一番心にのこったことなど、自由に感想を書いてください。

最初は、すごく緊張していて、全然話しかけられなかったけど、ビンゴゲームとか、各国の紹介とかで、少し緊張もほぐれて、話しかけられるようになった。フキの時も、話しかけることができて良かった。英語を話すには、とりあえず何かやってみないと、上達しないんだなと改めて思った。本当にいい経験になった。ありがとうございました。

**最初は緊張して、全然話しかけられなかったけど、  
…話かけられるようになった。  
英語を話すには、とりあえず、何かやってみないと  
上達しないと改めて思った。**

また、感想には、「英語を話すには、とりあえず、何かやってみないと上達しないことが分かった」とあり、身に付けた英語を実際に使う機会と場を設けることの大切さを示しています。



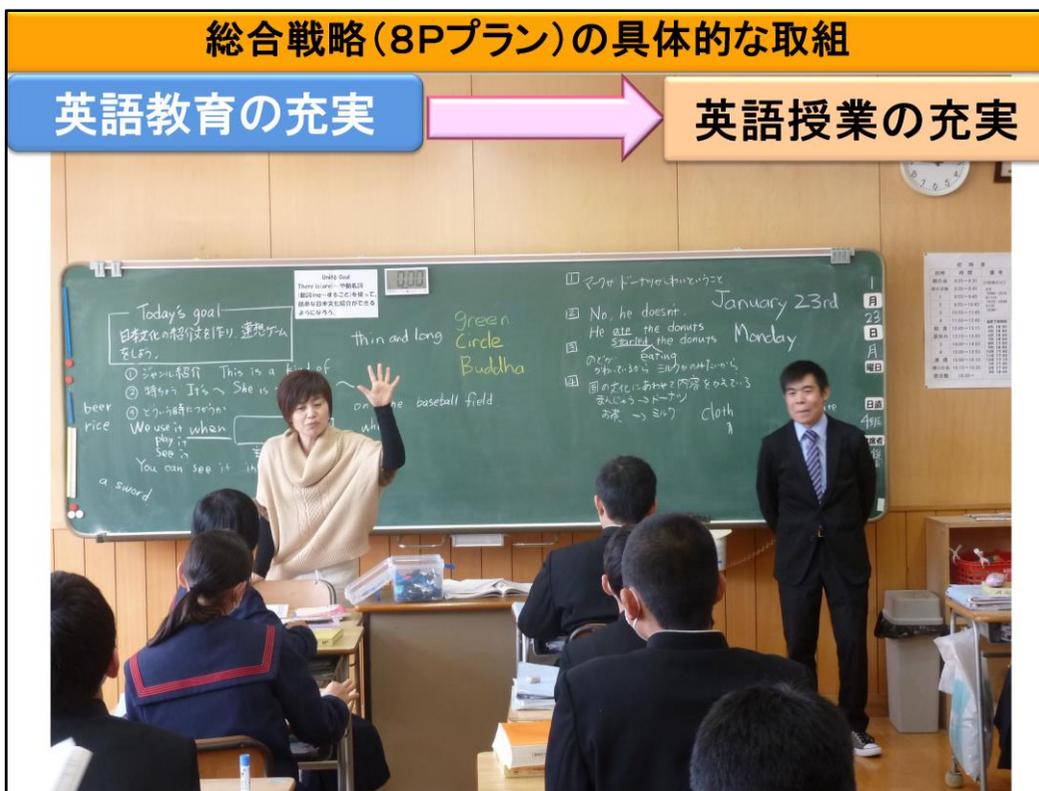
来年度も、本事業を継続し、  
子どもの英語への意欲と生きた英語力の育成に努めていきます。



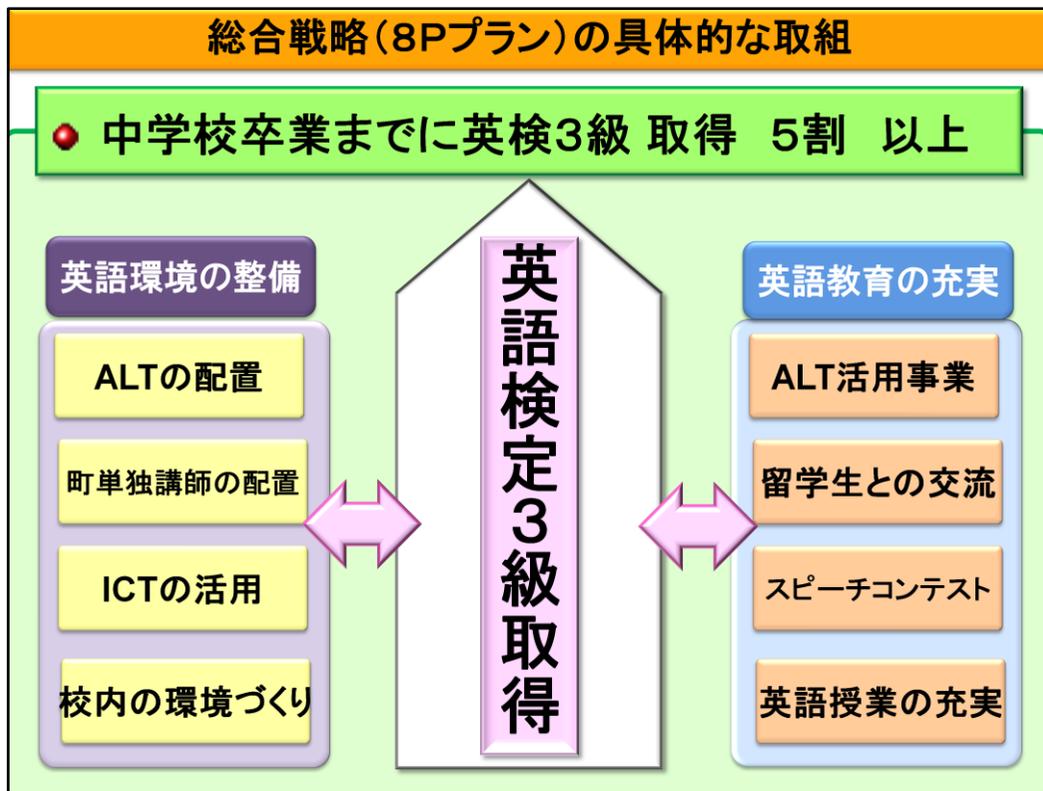
次に、英語による意見発表についてです。  
中学校でも、英語による意見発表を実施しています。  
中学2年生が、クラスの代表として、将来の夢について、  
英語でスピーチします。  
生徒はもちろんのこと、参観の保護者や地域の方から、  
どよめきが起こるほど、  
流暢で簡潔な英語スピーチを聞くことができました。



最後に、英語の授業づくりの工夫です。  
 子どもの英語への意欲や関心を高め、  
 英語力を確実に身につけるものは、  
 なにより、授業の他にありません。



中学校の英語の授業では、  
「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能を  
バランスよく身につけさせていくことに重点をおいています。  
単語を覚えるだけの授業ではなく、  
英語科教員とALTの連携により、  
ほとんど英会話だけで授業が進行する、  
「オールイングリッシュ」を意識した授業を取り入れています。  
また、会話する時間を多く設定し、  
「話す」ことや「聞く」ことの力をつける工夫をしています。  
今後も、興味関心を高め、  
使える、使いたくなる英語となるよう、  
学校と連携し、工夫していきます。



以上、英語教育の充実について説明しました。  
今年度の成果、課題を踏まえ、  
来年度は、児童生徒の英語力強化の一環として、  
すべての中学生が英語検定を受検できるよう、  
検定料の補助を現在検討しており、  
英検3級取得に向けた具体的な施策を進めていきます。  
以上で、教育施策に関する報告を終わります。



筑前町では、都市部で活躍してきた意欲ある人材を積極的に受け入れ、新たな視点や発想力により地域の活性化を図るため、昨年7月より5人の地域おこし協力隊を迎え活動していただいています。5人の隊員は筑前町に移り住み、それぞれの知識や経験、特技などを活かし、さまざまなミッションを果たすべく活動しながら、町への定住、定着を目指しています。本日は観光ツーリズムプランナーとして活動している、橋本さんに活動内容をお話しいたします。

皆様こんにちは。  
筑前町地域おこし協力隊観光ツーリズムプランナーの橋本です。  
活動報告を始めさせていただきます。

## 観光ツーリズムプランナー

### <<ミッション>>

自然や歴史・文化資源など豊富な観光資源を活用、  
また、まつりやイベントを通じた地域の賑わい・  
活性化を創出し観光客の増加を目指すとともに、  
全国に「筑前町ファン」を増加させるような取り組み

まずは観光ツーリズムプランナーとしての  
私のミッションですが、  
自然や歴史・文化資源など豊富な観光資源を活用、  
また、まつりやイベントを通じた地域の賑わい・活性化を創出し  
観光客の増加を目指すとともに、  
全国に「筑前町ファン」を増加させるような  
取り組みを行うことです。

- ①観光情報の提供、発信による  
誘客のための営業活動（町HP・パンフ）
- ②観光資源の掘り起こし、みがき上げを行う
- ③県及び観光関係団体との連携を図りながら  
その活動支援を行う
- ④町内の各種イベント（祭など）のサポート

具体的な内容としましては

観光情報の提供、発信による誘客のため、町のホームページ、パンフレットなどにより営業活動を行う

観光資源の掘り起こし、みがき上げを行う

県及び観光関係団体との連携を図りながらその活動支援を行う

町内の各種イベントへのサポート

の4つとなります。

私は東京の出身で筑前町のことも福岡のことも、九州のことすら知らないことだらけでしたので、

# まず、筑前町を知る

＝会議や研修に参加しました＝

まずは筑前町を知るというテーマで今年度は活動をしました。

## YASU FES ブース参加



夜須高原音楽祭「YASUFES」に  
地域おこし協力隊としてブースを出して  
アンケート調査をしたり、

## ちくちゃん枝豆販売会



福岡県庁ロビー

みなみの里

ちくちゃん枝豆解禁の際には  
県庁ロビーやみなみの里で、販売会に参加しました。

## ふらっとあさくら 出演



住民による手づくりの情報発信番組  
「ふらっとあさくら」への出演

## ど〜んとかがし祭 ちくちゃんカフェ班



ど〜んとかがし祭りではクロダマルスイーツを提供した  
ちくちゃんカフェで  
メニュー表作成や記録係を担当しました。

## 地域おこし協力隊サミット



九州サミット【小国】



全国サミット【東京】

全国に約4,000人いると言われている  
地域おこし協力隊のサミットにも参加しています。  
7月に熊本の小国で行われた九州サミット、  
11月に東京で開催された全国サミットです。  
九州内、全国の地域おこし協力隊との交流を図っています。

## 3つの取り組んだこと

筑前町でのさまざまな経験を踏まえて、  
3つのことに取り組みました。

# ①大刀洗平和記念館 周辺ランチMAP制作



記念館にて配布・  
甘木鉄道・筑前町内  
3駅にて掲示

ひとつめは太刀洗平和記念館周辺ランチMAP制作です。  
記念館では、ランチができる周辺のレストランをよく尋ねられるということで、  
周辺のレストランをまとめた地図を作成しました。  
11か所の飲食店すべてで取材と撮影を行いました。  
昨年11月に完成し、記念館での配布はもちろん、  
甘木鉄道の山隈、大刀洗、高田の3駅のホームに掲示もしています。

## ②ちくぜん散歩 (女性向け町パンフレット) 制作



現在制作中・・・来年度より配布予定

ふたつめは女性向けパンフレット「ちくぜん散歩」の制作です。  
こちらはまだ完成しておりませんが、  
来月完成予定で現在制作をすすめています。  
既存のパンフレットとは別に、  
女性目線・いいもの・素敵なもの・かわいいものを取り上げる  
パンフレットを協力隊手作りで作成しています。  
写真は撮影を行ったときのもですが、  
モデルも町のみなさんにご協力いただいて、  
とても楽しく撮影することができ、いい写真が撮れています。

### ③巨大ワラかがし班



最後に、たくさん見たと思いますが、  
どーんとかがし祭り・ワラかがし班での取組です。

## 爪づくり



制作自体では爪の色塗りをさせていただきました。  
ワラをとるワラ取りにも参加させていただき、  
人生で初めてたんぼに入り、  
軽トラの後ろに乗せていただきました。

## 制作過程の記録・撮影



また制作過程、制作完成後に写真や動画で記録をしていました。

## 制作動画作成



すべての動画の再生回数12500回【2017年1月現在】

その動画を編集をして町のホームページ・YouTubeにアップをしました。  
現在動画の再生回数は12500回に達しています。  
ここでは記録をして発信することの重要性を  
ここで改めて確認することができました。  
次でお見せする映像は全国放送で流れたものです。



**【動画:自動再生1分8秒】**

以上をもちまして、  
地域おこし協力隊としての私の活動報告を終わります。  
ご清聴ありがとうございました。

# 地域農政未来塾研究報告



続きまして今年初めての取組となった2つの事例について報告を行います。  
ひとつめは、地域農政未来塾研究報告です。  
筑前町では、人材育成のために、  
さまざまな職員研修への参加を進めています。  
地域農政未来塾とは、農政担当職員の養成講座です。  
実際に研修に参加した蘇木から報告を行います。

入庁2年目、農林商工課の蘇木と申します。  
よろしく申し上げます。

## 地域農政未来塾とは・・・

○全国町村会が実施する、農政担当職員養成講座。

○地域農政未来塾の目的

「農業・農村を取り巻く環境は厳しくかつ近年大きく変化しています。このような状況に対応するため、地域の実情を把握し、国の政策についての十分な理解とともに、農政の理論に通じた有能な農政担当職員の養成が喫緊の課題となっています。

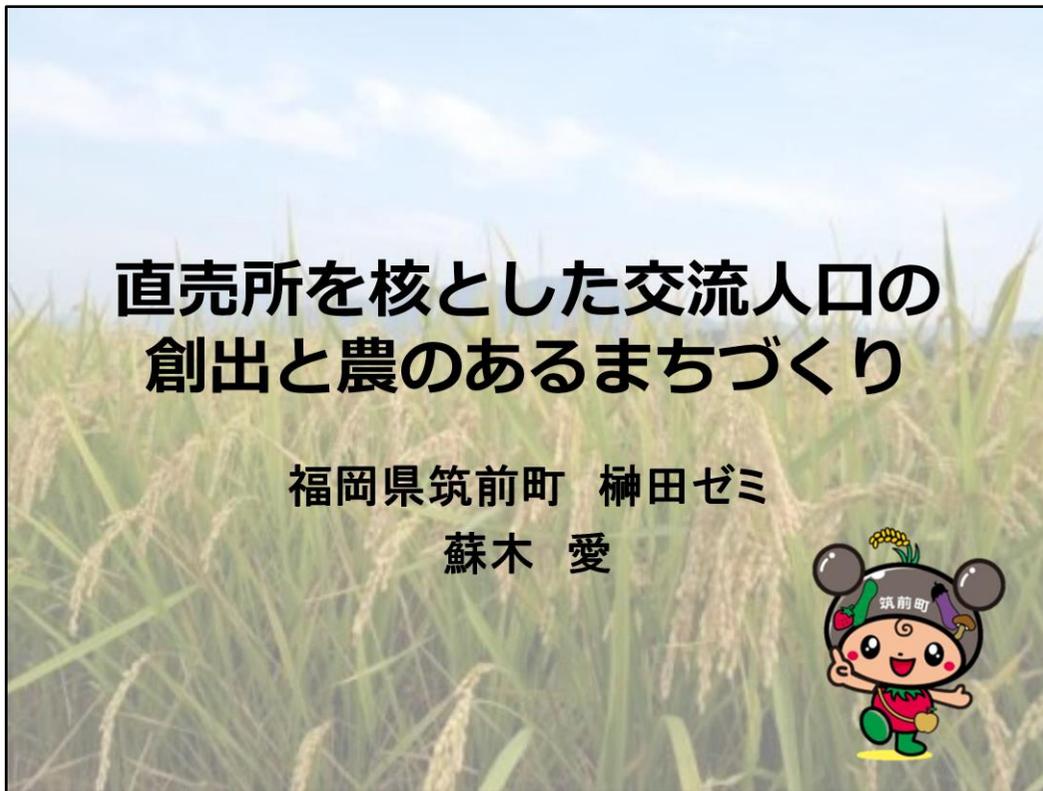
このため、自ら地域の課題に気づき、学び、考え、提案し、そして実行できる町村の農政担当職員を養成する本格的な講座を開講するものです。」(募集要項より抜粋)

今回、私は全国町村会が実施する地域農政未来塾に参加する機会をいただきました。地域農政未来塾とは、農業・農村を取り巻く厳しい環境や田園回帰の潮流を受け、地域の実情を把握し、自ら地域の課題に気づき、学び、考え、提案しそれを実現できる町村職員の育成が目的です。

## 地域農政未来塾の特徴

- 少人数教育(全国から20名程度)
- 一流の講師陣からの直接指導
- これからの農業・農村政策に必要な知識や能力を、幅広くかつ体系的に学ぶことができる
- 受講生、講師との人的ネットワーク形成

地域農政未来塾の特徴は、少人数制で今回は全国から19人が参加しました。昨年5月から計8回の講座が設けられ、名古屋大学教授の生源寺塾長を筆頭に、一流の講師陣から直接授業を受けました。また、ゼミ形式で4人の主任講師に5人ずつ所属し、各町村の問題に対して課題を発見し、解決策などの研究をしてきました。ゼミでは、地域の実情を互いに話し、意見を出し合いながら課題解決となる切り口を見つけるという作業でした。



他の町村では「都市と農村の混在化」「農協不在」  
「中山間地域での農家減少・高齢化」などの課題がある中、  
私は「直売所を核とした交流人口の創出と農のあるまちづくり」  
をテーマに研究を進めていきました。  
今回は限られた時間の中での発表ですので、  
一部しかお話しできませんが、  
筑前町の農業・農村の発展への私なりの意見をまとめています。

## 筑前町の農業を維持・発展させるには

### ○従来の筑前町の農業

米麦大豆を中心とした土地利用型農業

### ○現状と課題

担い手の減少・大規模化、高齢化

米価の低迷



大規模化が生産額の減少をカバーできていない

### ○解決策

**都市住民による交流型農業の展開**

**地産地消のさらなる推進**

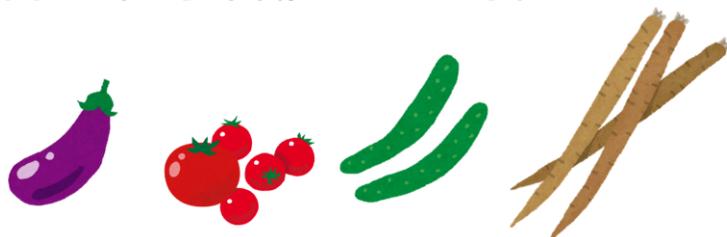
みなさんご存じのように、筑前町は緑豊かな町ですが、一方で都市化も進んでおり、農業振興だけを進めていくことはできません。産業構造は、農業を含む一次産業が衰退し生産者の所得の減少、生産者数の減少、高齢化等の問題を抱えています。そんな中、私は解決策となるキーワードを二つ設定しました。それは、「都市住民による交流型農業の展開」と「地産地消のさらなる推進」です。

## 筑前町農業の現状と課題

まずは、筑前町の現状と課題です。

## 筑前町の概要

- 農業：米麦大豆中心の土地利用型農業  
ナス、キュウリ、ゴボウ、イチゴ等の  
園芸、養鶏等の畜産
- 農地面積：2,674ha
- 農業従事者数：1,040人
- 農業従事者の平均年齢：64.1歳



筑前町は、主に土地利用型農業が展開されています。

現在は、米麦大豆を中心に、

ナス、キュウリ、ゴボウ、イチゴ、ブドウ、ナシ、イチジクなどの  
野菜・果樹が生産されています。

養鶏や酪農・肉用牛生産も軒数は少ないながらも営まれています。

町の総面積6,710ヘクタールの約4割にあたる

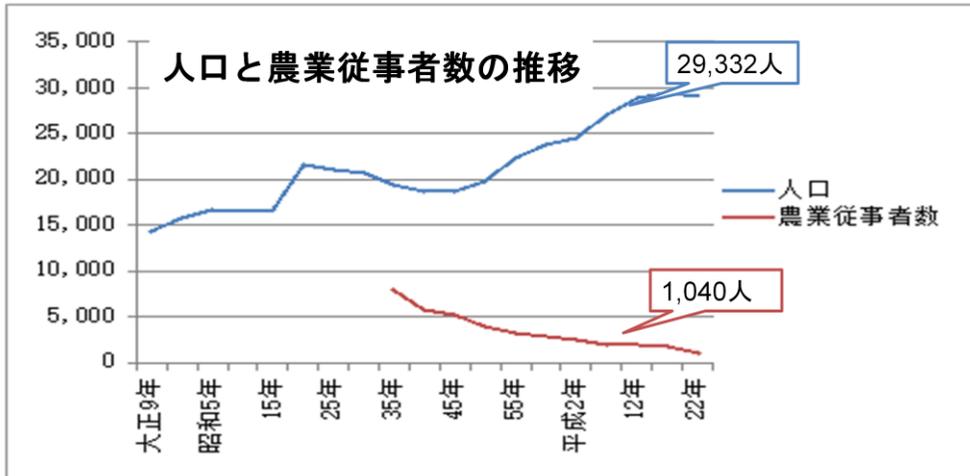
2,700ヘクタールが農地であり、

27年度の農林業センサスによると

農業従事者数は1,040人と年々減少しており、

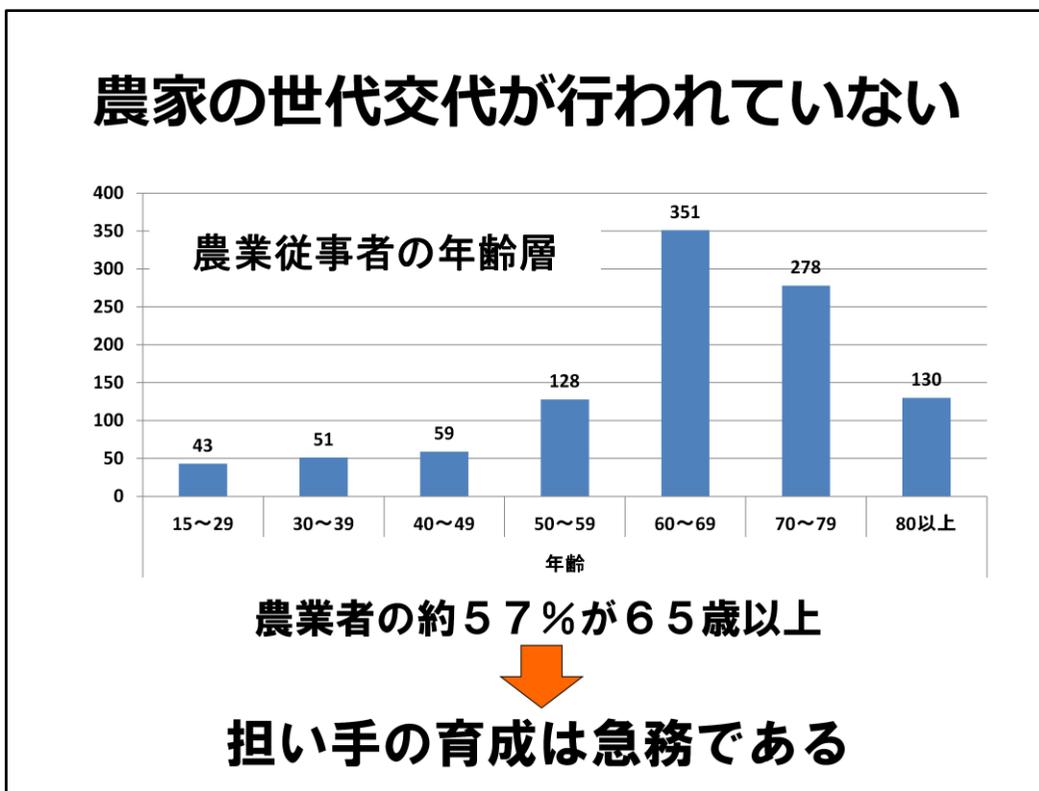
担い手の平均年齢は約64歳です。

## 人口増加と農業従事者数の減少

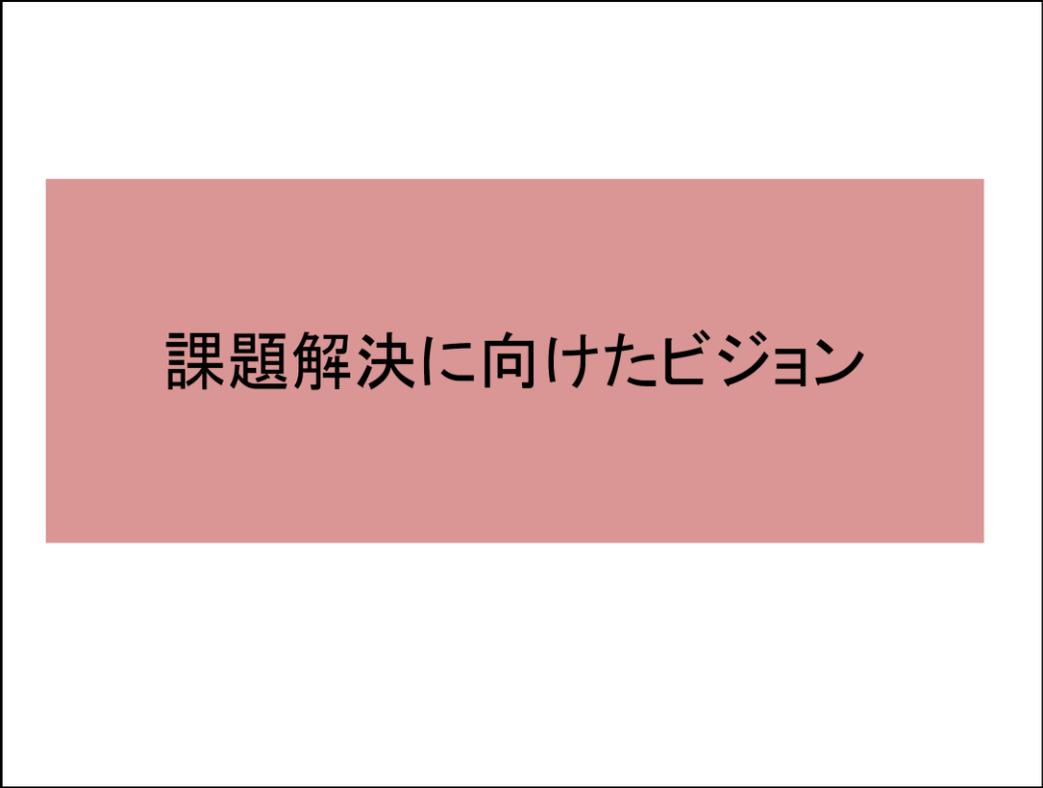


➡ 農業従事者数は減少の一途

1つ目の課題としては「農家戸数の減少と高齢化」です。  
人口はゆるやかに増えていますが、農業就業人口は年々減少しています。



さらに、農業従事者の年齢層は平均64.1歳と全国平均の66.4歳よりは少し若いですが、農業者の世代交代が行われていない状況です。後継者の有無についても、4割以上がいないと答えており、今後の農地の管理者としての担い手の育成は急務となっています。平野部の圃場整備されている優良農地のように、認定農業者や集落営農組織が中心となり農地を集めて管理できればよいですが、中山間地域などの条件不利地域では、農家の減少や高齢化が進み農地が荒れてきています。



## 課題解決に向けたビジョン

そこで、これらの課題を解決するために  
いくつかのビジョンを作成しました。

# 1 都市住民との交流活動

- 好立地条件：福岡市、久留米市から1時間以内、山麓線の開通→良好な交通アクセス



『都市住民による農地の管理』



ファーマーズマーケット「みなみの里」

- 体験・観光農園の整備



まず突破口として考えたのは、福岡市から1時間以内という好立地条件です。この立地条件を活かし、都市住民に農地の管理をしてもらうことが可能ではないかと考えました。幸い山の麓には「ファーマーズマーケットみなみの里」があるため、そこを拠点に体験農園等を整備することにより、都市住民による山間部周辺の農地の管理が期待できます。

## 2 「みなみの里」のハブ拠点整備による地産地消のさらなる推進

- 学校との連携



- 病院・福祉施設、企業との連携
- 南部住民向けのマルシェや出張販売の開催



**地域内流通をより促進させる**

また、みなみの里を中心とした、地産地消の更なる推進が地域活性化のポイントになると考えています。現在、町内の学校給食において、地元産野菜の利用率は57%です。みなみの里も農産物の納入を行っています。給食だけでなく、小学校単位で学校農園を利用し、米の栽培などが行われています。学校での農作業体験は、子どもたちに興味を持ってもらうチャンスとなり、食育にもつながります。南部の企業誘致地帯の企業や工場では、社員食堂での地元産農産物の利用や職員研修などで農作業体験を提供することも考えられます。宅地化が進む南部の住民に対しても、マルシェや出張販売などを開催し、地元産農産物に触れる機会を増やすことも重要です。

## まとめ

- 北部地域は「みなみの里」を拠点に農村としての機能を強化
- 南部地域の住民を巻き込みながら、地域内で農産物の流通を促進
- 居住地と農村のゾーニング



「とかいなか」

筑前町の農業・農村を維持・発展

最終的には、北部地域は都市住民と交流しながら農地の管理を実施し、農村としての機能強化を図ります。

また、南部地域の住民を巻き込むことで、地域内で農産物の流通を促進させます。

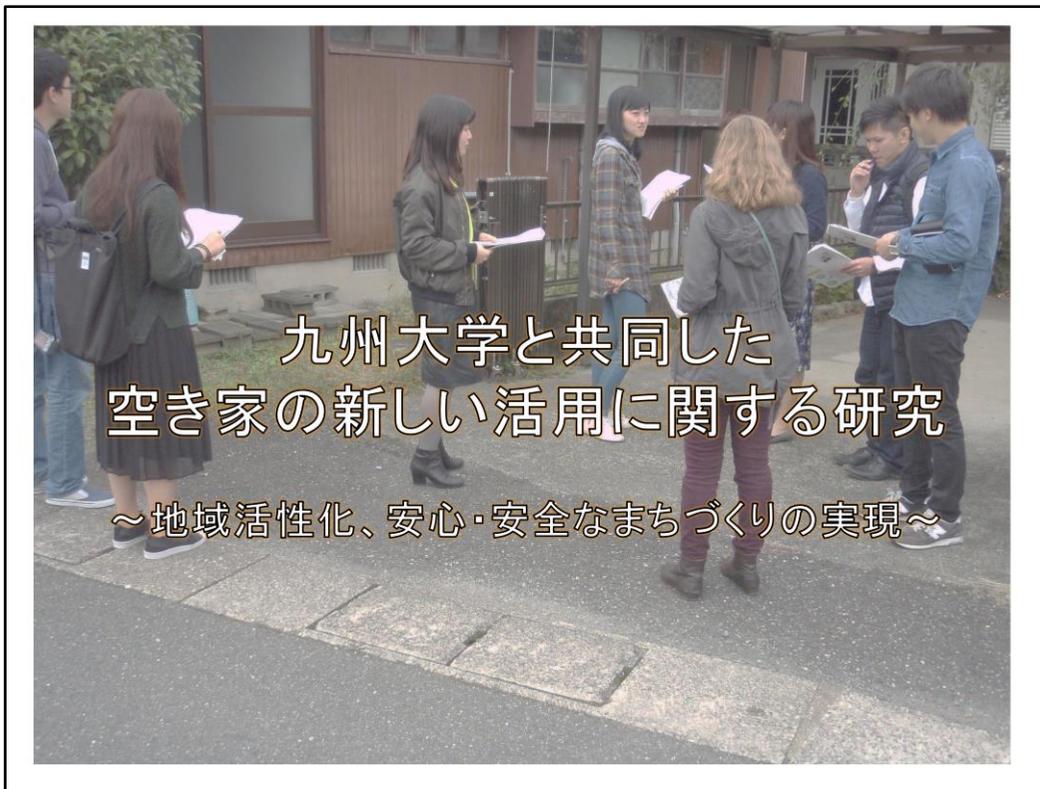
さらには、居住地と農村のゾーニングをすすめ、都会に近い「とかいなか」として、農業・農村を維持・発展していけるのではないのでしょうか。

以上で、発表を終わりますが、最後にこの一年間の研修を通じ、さまざまな経験をすることができたことに感謝申し上げます。

この塾の中で、主任講師をはじめ全国の町村職員と交流することは、様々な課題や町の強みなどへの気づきとなり、このように発表することもできました。

また、全国にネットワークができたことは最大の宝だと思っています。

これからもこの経験やネットワークを活かし、筑前町の役に立つ仕事ができるよう日々勉強したいと思います。これで私からの報告を終わります。



つづきまして、空家活用の事例報告を行います。  
現在、全国的に空き家は増加傾向にあり深刻な問題となりつつあります。  
筑前町においても空家対策を昨年度策定した  
総合戦略の最重要施策の1つに位置付け、  
対策の推進によって、地域活性化、  
安心・安全なまちづくりの実現を目指しています。  
また、国土交通省は、全国の自治体が独自に行なっている  
「空き家バンク」の情報を一括して閲覧できるホームページを  
2017年度中に開設すると発表しました。  
こうした背景を踏まえながら、筑前町の地理的な立地条件、  
住民構成や産業などの地域特性にふさわしく、  
地域活性化に繋がる活用方法やサービス、  
利用者が購入・賃貸したくなるような  
空き家の新しい内装や外観などについて、  
現地調査や他の地域の事例調査などの研究を行ってまいりました。  
そして今月3日、町に対し7つの研究成果が報告されました。  
本日は、その中で効果的と思われるアイデアについて、  
九州大学大学院「芸術工学府デザインストラテジー専攻」の  
黒木泰地（くろきたいち）さん、  
加峯（かぶ）まりえさんのお二人から発表していただきます。

## 空き家の新しい活用に関する研究

### 研究①

「高齢者介護施設の利用者を対象とした空き家活用法の提案」

九州大学芸術工学府デザインストラテジー専攻

黒木泰地さん

### 研究②

「新しく起業する人のためのまち おためし！ちくぜん」

九州大学芸術工学府デザインストラテジー専攻

加峯まりえさん

※空き家活用研究報告については、読み原稿なし。



今回発表された内容は、  
筑前町における空き家活用法のアイデアとして、  
今後、実現に向けて調査・研究を行っていく予定です。

以上、九州大学と共同した  
空き家の新しい活用に関する研究発表を終わります。

## 町の借入金の現状と 健全財政の取組み



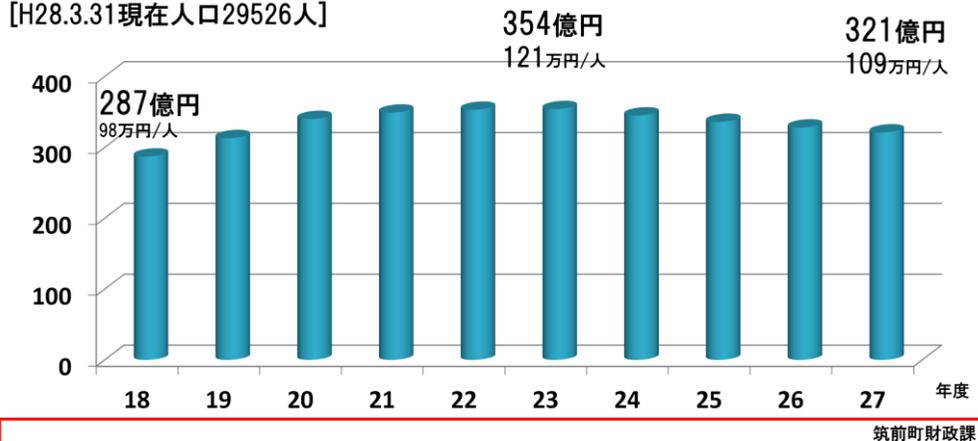
続きまして町の借入金の現状と健全財政の取組みについてご報告します。  
入庁4年目、人権・同和対策室の久野と申します。  
よろしくお願いいたします。

## 町の借入金の現状と健全財政の取組み

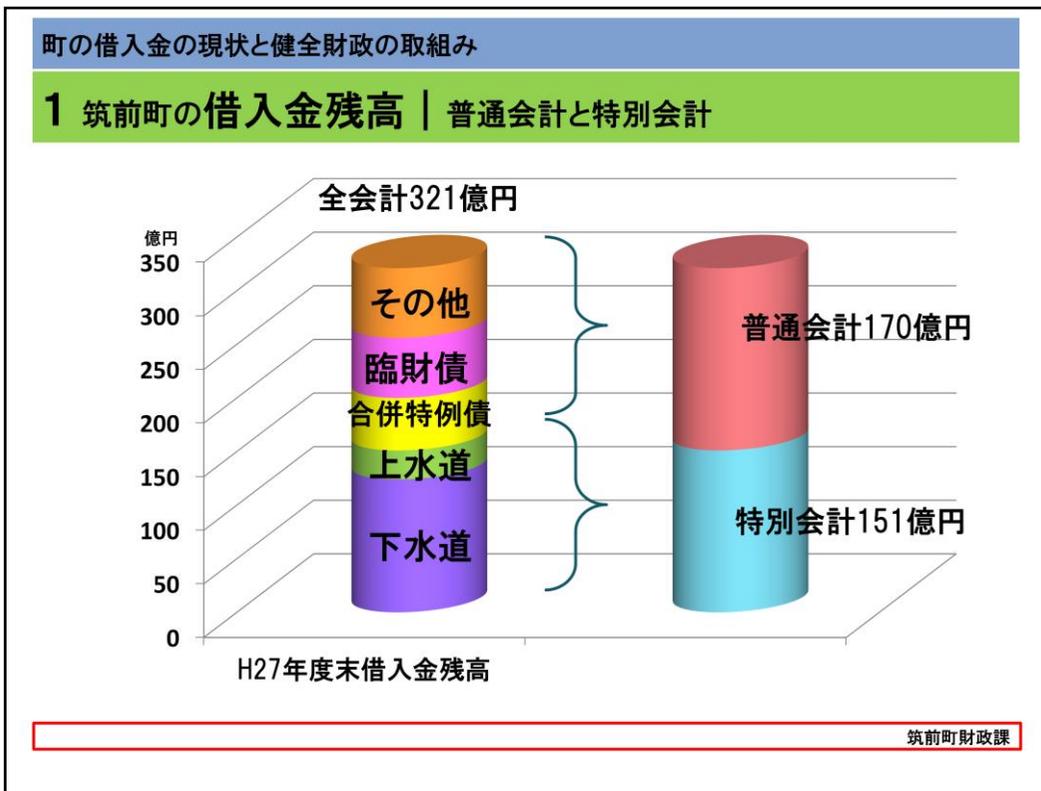
## 1 筑前町の借入金残高 | 全会計

平成23年度まで町の借入金の残高は増え続け、その後は減少傾向にあります。

町民一人あたり109万円  
[H28.3.31現在人口29526人]



まずは、筑前町の借入金、つまり借金の残高についての現状を説明します。グラフは平成18年度から27年度末の借入金の残高です。18年度には287億円だった残高が、23年度に354億円まで増加していましたが、その後は減少し、27年度末では321億円になっています。27年度末時点の町の人口が29,526人ですので、1人あたりにすると、約109万円の借金を抱えていることになります。



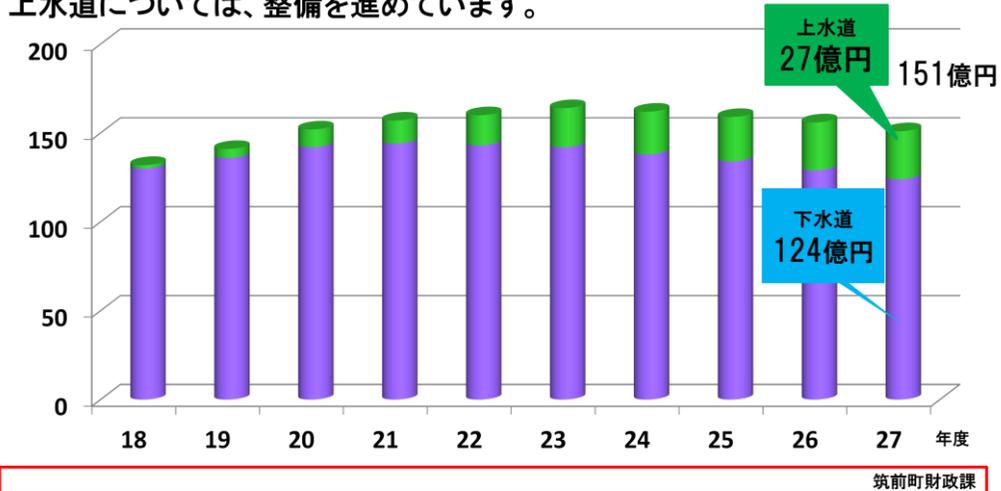
では、借入金の中身について会計を分けてみてみたいと思います。  
町には、一番規模の大きな会計である普通会計と  
水道や下水道などの特別会計があります。  
27年度末の借入金残高は全会計で321億円、  
内訳は、普通会計170億円、特別会計151億円となっています。

## 町の借入金の現状と健全財政の取組み

## 1 筑前町の借入金残高 | 特別会計

## 上下水道

合併以前の平成3年度より、町では下水道の整備を進めてきました。  
上水道については、整備を進めています。



次に、特別会計についてみてみます。

特別会計では上水道と下水道の整備のために借り入れをしています。

下水道の整備については、借入金残高は124億円となっています。

なお、25年度で事業は完了しています。

現在進めている上水道の整備については、27億円となっています。

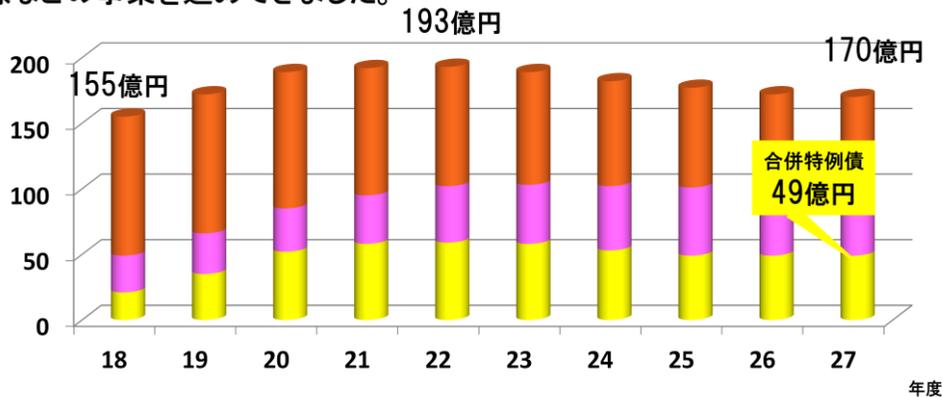
上水道と下水道で、借入金全体の約半分を占める形となっておりますが、約半分は交付税で戻ってくるとともに、町の資産が増え、住民みなさまの快適な生活環境の整備につながっていると考えています。

## 町の借入金の現状と健全財政の取組み

## 1 筑前町の借入金残高 | 普通会計

## 合併特例債

合併以降、交付税措置の面で有利な合併特例債を活用し、学校施設・道路・みなみの里・大刀洗平和記念館・多目的運動公園・防災無線などの事業を進めてきました。



筑前町財政課

次は、普通会計をみてみます。

普通会計は大きく3つに分けられます。

合併特例債と臨時財政対策債、その他です。

まずは、合併市町村だけが利用できる合併特例債を見てみます。

グラフの黄色部分が合併特例債です。

これは普通会計の借入金残高の約3割を占める49億円となっています。

合併特例債は国から毎年交付される地方交付税措置の面で有利な財源です。

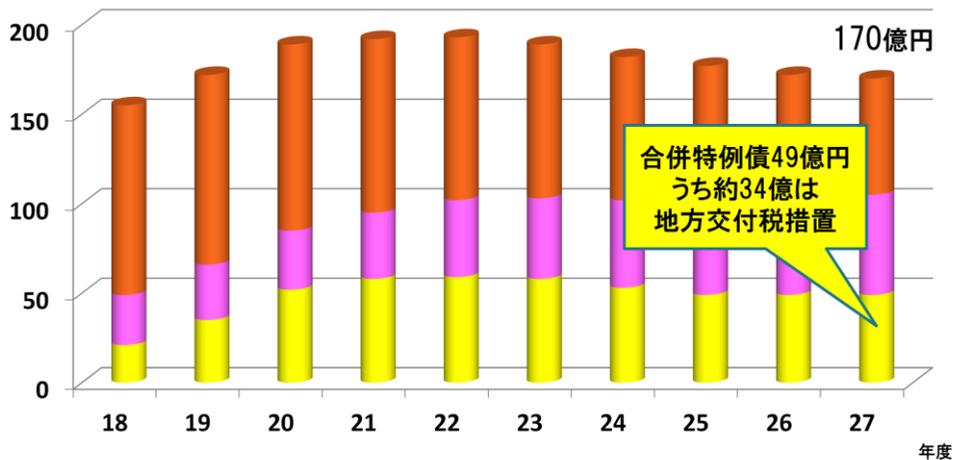
これを活用して、合併後、道路整備、みなみの里、大刀洗平和記念館、学校施設、篠隈保育所、多目的運動公園、防災無線など、

大きな事業をすすめてきました。

## 町の借入金の現状と健全財政の取組み

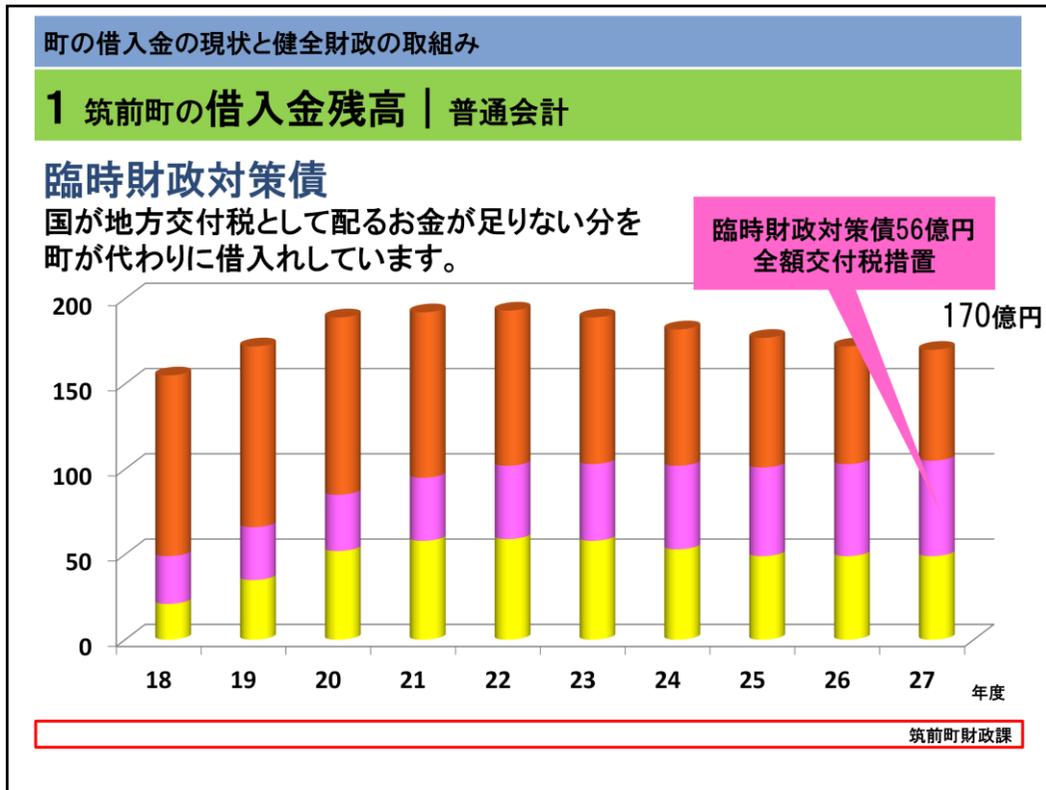
## 1 筑前町の借入金残高 | 普通会計

## 合併特例債

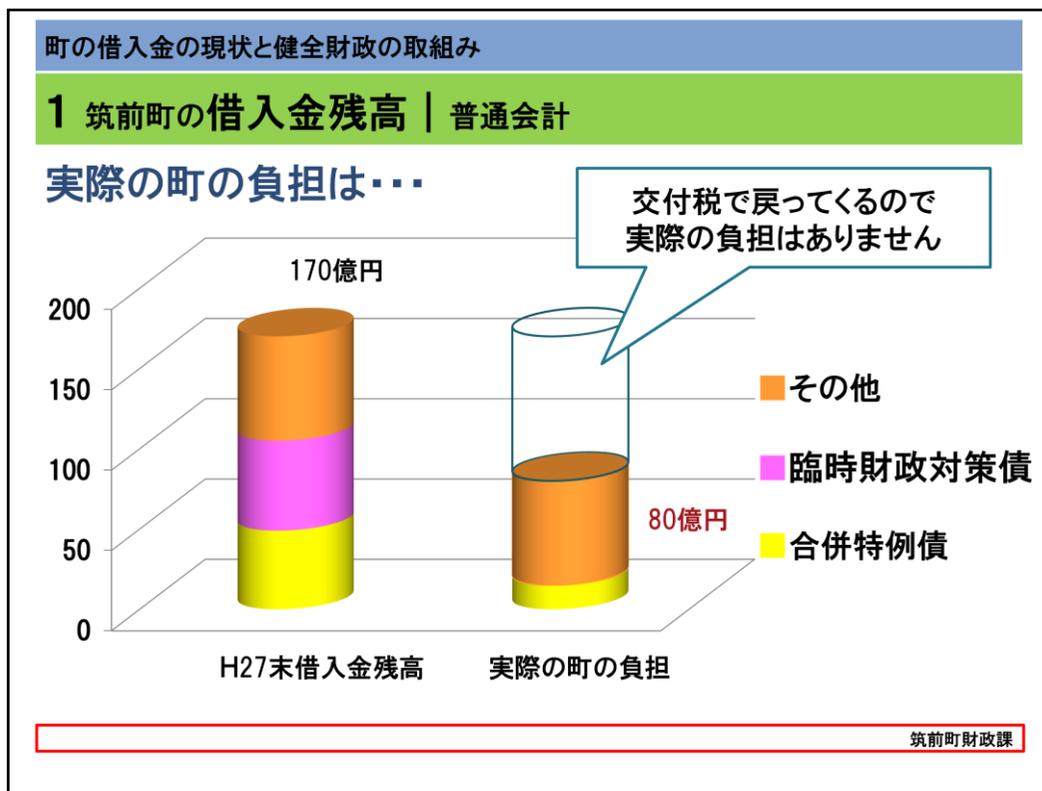


筑前町財政課

合併特例債は7割が地方交付税で戻ってきます。  
現在の借入金残高49億円のうち約34億円は地方交付税で戻ってくるので、  
実質の町の負担額は15億円ということになります。



また、臨時財政対策債も、大きな割合を占めています。これは、国が地方交付税として配るお金が足りないので、町が代わりに借り入れをする、というものです。グラフのピンク色が臨時財政対策債を示していますが、その割合は年々増え、27年度末で、56億円、普通会計の約3割を占めています。先程の合併特例債は7割返ってくるものでしたが、これは全額交付税として返ってくる制度になっています。



では、実際に町が負担しなければならないのは、どの程度あるのかを見てみたいと思います。

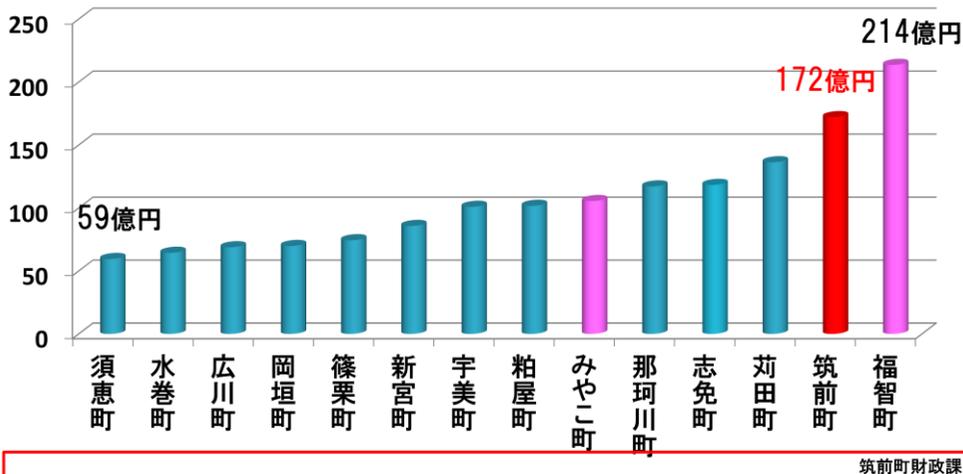
普通会計だけで見てみると27年度末の借入金残高は約170億円です。そのうち、“その他”の中に一部交付税で戻ってくるものもありますが、それを除いた分で見ても、町の負担は半分以下の約80億円となります。

このように、お金がないから借りるわけではなく、少しでも町の負担、住民皆様の負担が少なくなるよう、そして、今の人だけではなく後世の人たちにも等しく負担をしていただくという目的で、有利な借入を活用しています。

## 町の借入金の現状と健全財政の取組み

## 2 他の町の借入金残高は? | 平成26年度決算 | 普通会計

普通会計で福岡県内の類似団体とくらべると、  
借入金の残高が2番目に大きい町  
となっています。



ただし、借入金が多いというのは否めません。

他団体と比較可能な最新データである

26年度普通会計の決算で県内の類似団体と比較してみました。

筑前町は右から2番目、つまり、

類似団体の中では、借入金残高が2番目に大きい町となっています。

筑前町は172億円、最も多い福智町では214億円、

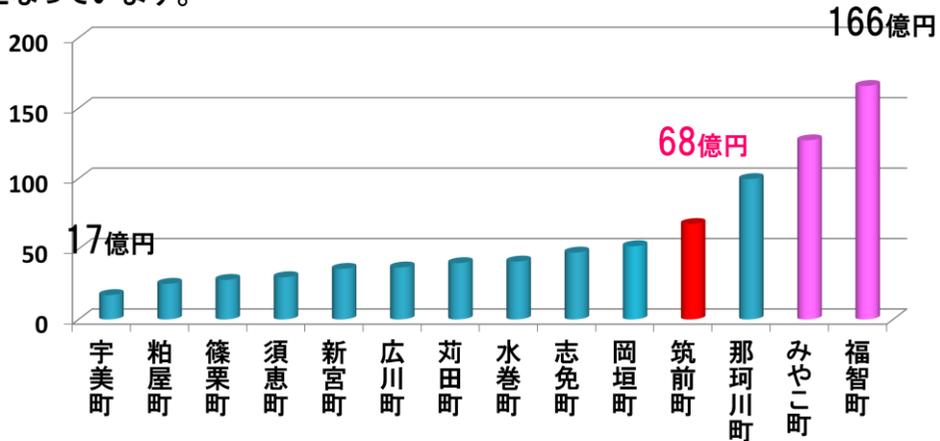
一番少ない須恵町では59億円となっています。

ちなみにピンク色が合併した町を示しています。

## 町の借入金の現状と健全財政の取組み

## 3 他の町の基金は? | 平成26年度決算 | 普通会計

福岡県内の類似の14団体とくらべると、  
基金は4番目に大きい町  
となっています。



筑前町財政課

一方で、町の基金、つまり貯金の額がどのくらいあるかを見てみますと、普通会計の26年度末での残高が68億円で、右から4番目、つまり、類似団体の中で4番目に多いということになります。

## 町の借入金の現状と健全財政の取組み

## 4 健全化判断比率は？ | 平成27年度決算 |

財政健全化法に基づき、自治体の財政破綻を未然に防ぐため  
また早期の健全化を促すことを目的とするため  
健全化判断比率と資金不足比率の算定を行っています。

健全化判断比率	H27筑前町比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	-	13.85%	20.00%
連結実質赤字比率	-	18.85%	30.00%
実質公債費比率	13.2%	25.0%	35.0%
将来負担比率	100.9%	350.0%	

資金不足比率	H27比率	経営健全化基準
公営企業4会計	-	20.0%

※「-」は赤字が無い事を示しています。

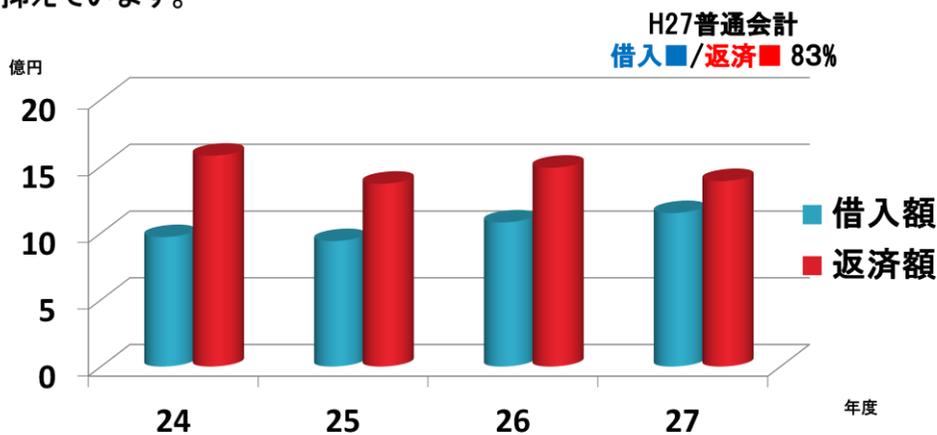
※公営企業4会計=水道、公共下水道、農業集落排水、工業用地造成

次に町の財政が健全かどうかを示す比率です。  
財政健全化法に基づき、財政破綻を未然に防ぎ、  
早期の健全化を促すことを目的に、  
健全化判断比率と資金不足比率の算定を行っています。  
健全化判断比率には、4つの指標があります。  
1つ目の実質赤字比率は、町の普通会計の赤字の程度、  
2つ目の連結実質赤字比率は、町の全会計をあわせた場合の赤字の程度、  
3つ目の実質公債費比率は、  
町の財政において借入金の償還額がどれだけ負担になっているか、  
4つ目の将来負担比率は、  
町が将来支払う可能性がある負債の比率を表しています。  
また、資金不足比率とは、町が持っている公営企業ごとの  
資金不足を算定し経営状況の深刻度を表したものです。  
27年度は、全ての項目で基準値をクリアし、健全な財政運営といえます。  
しかしながら、類似団体と比較すると高い比率となっています。  
そのため、この比率を悪化させないためにも、  
町では次のような取組みを行っています。

## 町の借入金の現状と健全財政の取組み

## 5 健全財政の取組み | 普通会計の借入は元金返済の9割以下

借入金の残高を減らす取組みとして  
普通会計の借入を**元金返済の9割以下**に  
抑えています。



筑前町財政課

それは「普通会計の借入は元金返済の9割以下にする」という取組みです。  
借入金残高を少しでも減らすため、

「借入は元金返済の9割以下」にするよう取り組んでいます。

この取組みを行うことで、少しずつ残高が減ってきています。

今後もこれを継続することで残高を減らしていきたいと考えています。

ただし、災害など緊急の場合には臨機応変に対応していきます。

また、繰上返済も財政状況をみながら随時検討し、将来の利息を少しでも減らしていこうと考えています。

こうした取組みを行っていくことで、少しずつでも借入金残高を減らし、健全な財政運営を行っていきたいと考えておりますので、

今後とも、町民皆様のご理解とご協力をお願いします。

以上、町の借入金の現状と健全財政の取組みについての報告を終わります。(一礼)

ご清聴ありがとうございました



以上をもちまして町政報告を終了します。